

# **STAR**

## **自走ラッピングマシン**

### **取扱説明書**

製品コード	K93131
型 式	JWM1000
部品供給型式	JWM1000-01

“必読”機械の使用前には必ず読んでください。

---

**STAR-農機株式会社**

STARR

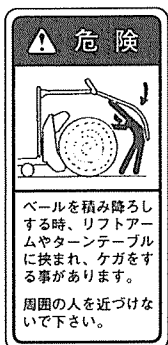
# ⚠️ 安全に作業するために

## 安全に関する警告について

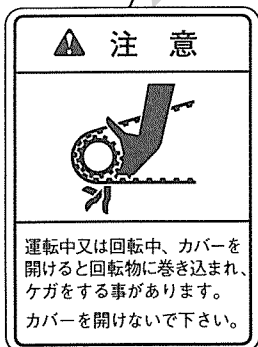
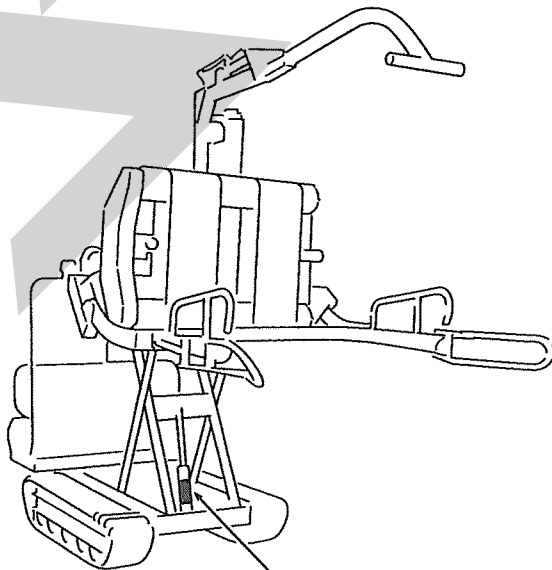
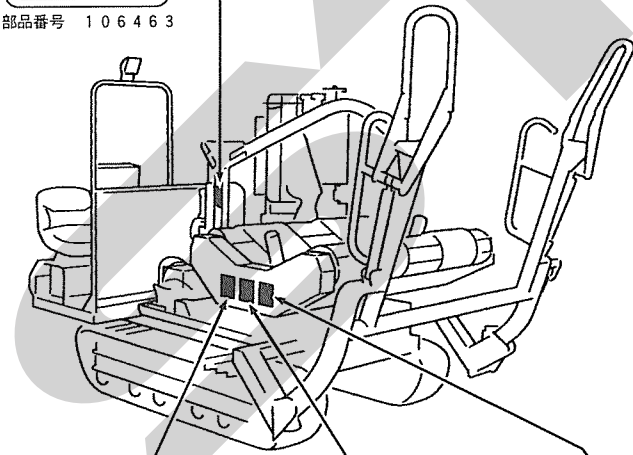
本機には、⚠️印付きの警告ラベルを貼付しています。安全上、特に重要な項目を示しています。警告を守り、安全な作業を行ってください。

### 警告ラベルについて

- ⚠️ 危険** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを示します。
- ⚠️ 警告** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性が高いことを示します。
- ⚠️ 注意** その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあることを示します。



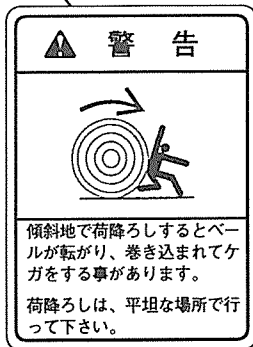
部品番号 106463



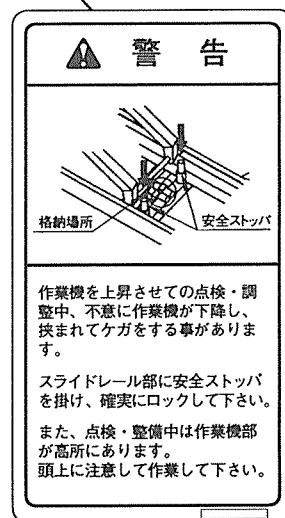
部品番号 106171



部品番号 106462



部品番号 106465



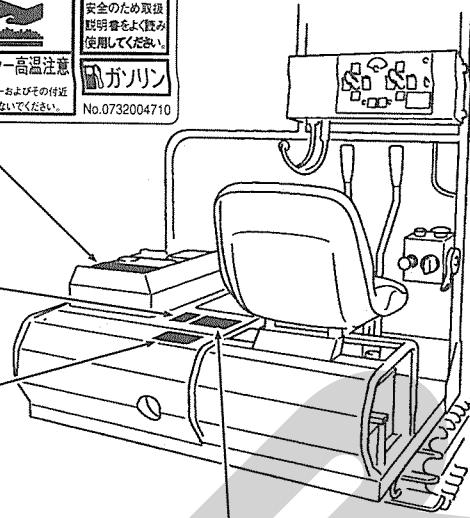
部品番号 106582

<p><b>危険</b></p>	<p><b>危険</b></p>
<p>●後進するときは、スピードを落とし足元に注意して、障害物がないか確認してください。</p> <p>●障害物と本機の間にはさまれてケガをすることがあります。</p>	<p>●坂道、路肩、障害物、乗り越え溝のある場所、軟弱地などでは十分注意して、スピードを落ととして走行してください。</p> <p>●転落・転倒などの事故によりケガをすることがあります。</p>

部品番号 IN3661-93090

<p><b>危険</b></p>	<p><b>警告</b></p>	<p><b>注意</b></p>	<p><b>注意</b></p>
<p><b>火気厳禁</b></p> <p>燃料油は必ずエンジンを停止して下さい。燃焼口火を近づけると火災の危険があります。</p>	<p><b>排気ガスに注意</b></p> <p>室内や狭い場などでは、運転をしないでください。</p>	<p><b>マフラー高温注意</b></p> <p>マフラーおよびその付近に触れないでください。</p>	<p>安全のため取扱説明書をよく読み使用してください。</p> <p><b>ガソリン</b></p> <p>No.0732004710</p>

部品番号 0732004710

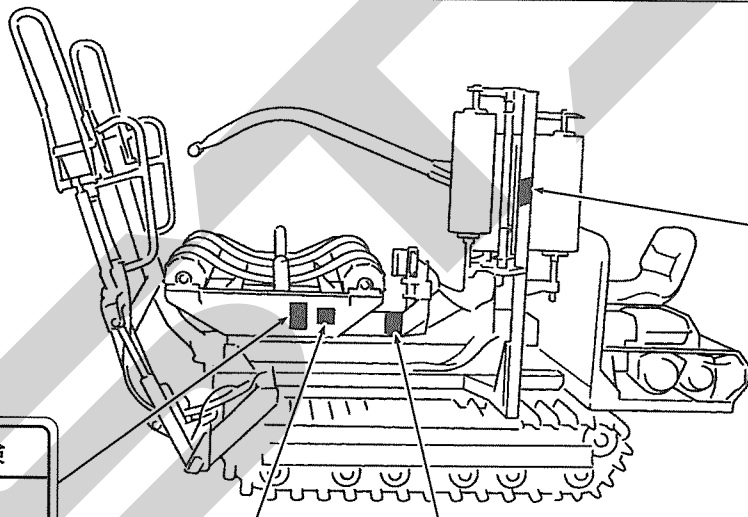


<p><b>注意</b></p>	<p>本機を運転するときには、必ず取扱説明書をよくお読み下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>作業に集中し、だぶつきのない服装で行ってください。</li> <li>酒を飲んだとき、過労すぎ、病氣や妊婦しているときは、作業をしないで下さい。手前には運転させないで下さい。</li> <li>本機を運転するときは、周囲の安全を確認して下さい。</li> <li>運転前には、必ず点検や調整をして下さい。</li> <li>点検や調整をするときは、必ずPTOなどの動力遮断や動力停止（エンジン、電源など）をしてから行って下さい。</li> <li>点検・調整で取り外したカバー類は必ず元通りに取り付けて下さい。</li> <li>他人に本機を貸すときは、必ず「取扱説明書」をよく読んでから作業するようすすめ下さい。</li> </ol>
------------------	--

部品番号 106419

<p><b>警告</b></p>	<p><b>警告</b></p>	<p><b>注意</b></p>	<p><b>注意</b></p>
<p>●急な坂道ではサイドクラッチレバーを操作しないでください。●思わぬ方向に本機が傾倒し転落などの事故によりケガをすることがあります。</p> <p>●下り坂ではエンジンブレーキを利用して、いつでもブレーキが掛けられる姿勢で運転してください。</p> <p>●最大作業能力以上の積載はしないでください。</p> <p>●積荷は確実にロープを掛けて固定してください。</p> <p>●積荷は高く積まないでください。●機械の破損や積荷のバランスが崩れてケガをすることがあります。</p> <p>●本機輸送時の積積りしは平地で堅固な場所に、強度・長さ・幅の余裕のあるアユミ板を使用し低速で行ってください。アユミ板の上での方向転換はしないでください。本機はトラックに積載に固定してください。●転落・転倒などの事故によりケガをすることがあります。</p>	<p>●エンジン始動時は必ず走行クラッチを切ってください。</p> <p>●本機が急発進しケガをすることがあります。</p>	<p><b>取扱説明書をよく読んで安全に作業してください。</b></p> <p>●機械を他人に貸すときは取扱方法をよく説明し使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。●始業点検・定期点検は必ず実施してください。●各操縦部・駆動部には注油等をして作動確認をしてください。●公道を走行しないでください。小型特殊自動車等の認定を受けおけません。●走行中は荷台に乗って運転したり人を乗せないでください。転落などによりケガをすることがあります。●急な発進・停止・旋回や速度の出しすぎ禁止。●機械から離れるときは、平地で安定した場所に置き、エンジンを止め、クラッチを切りブレーキを掛けてください。やむを得ず傾斜地におく場合は必ず止まるめをしてください。●格納時は、エンジン、排気管が完全に冷えてから、燃えやすいものが近くに無場所に移動してください。</p>	<p><b>点検時エンジン停止</b></p> <p>●点検整備をするときは、かならずエンジンを停止してください。</p> <p>●ケガをすることがあります。</p> <p>●カバー類は常に装着してください。</p> <p>●はずしたままでは運転することができません。</p>

部品番号 IN3503-93050



<p><b>危険</b></p>
<p>●傾斜地や軟弱地などで機体が不安定になる場所では、作業しないで下さい。</p> <p>●トラックの荷台への荷降ろし作業以外では、作業機部を上昇させて走行しないで下さい。</p> <p>●転落・転倒などの事故により、ケガをすることがあります。</p>

部品番号 106583

<p><b>警告</b></p>
<p>いびつなベールをラッピングするとベールが振り落とされ、ケガをすることがあります。</p> <p>標準回転数以下で運転して下さい。</p>

部品番号 106464

<p><b>注意</b></p>
<p>ターンテーブルが上昇すると、ラップホルダが閉じて、ケガをすることがあります。</p> <p>上昇させる時は、手を入れないで下さい。</p>

部品番号 106466

<p><b>注意</b></p>
<p>フィルム巻き付け作業中、フィルムやストレッチローラーに接触すると巻き込まれ、ケガをすることがあります。</p> <p>作業中はさわらないで下さい。</p>

部品番号 106467

— ラベルが損傷した時は —

警告ラベルは、使用者および周囲の作業などへ危険を知らせる大事なものです。ラベルが損傷した時は、すみやかに貼り替えてください。注文の際には、この図に示す 部品番号 をお知らせください。

## 安全操作上の注意点

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害を生じる恐れがあります。

作業前には、作業機およびトラクタの取扱説明書をよくお読みになり、十分に理解をしてからご使用ください。

### 作業前に

取扱説明書は製品に近接して保存を

#### ▲注意

- 機械の取り扱いで分からない事があった時、取扱説明書を製品に近接して保存していないため、自分の判断だけで対処すると思わぬ事故を起こし、ケガをする事があります。取扱説明書は、分からない事があった時にすぐに取り出せるよう、製品に近接して保存してください。

取扱説明書をよく読んで作業を

#### ▲注意

- 取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領の不十分な理解のまま作業すると、思わぬ事故を起こす事があります。作業を始める時は、製品に貼付している警告ラベル、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項、取扱要領を十分に理解してから行ってください。

こんな時は運転しないでください

#### ▲警告

- 体調が悪い時、機械操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こす事があります。次の場合は、運転しないでください。
  - 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できない時。
  - 酒を飲んだ時。
  - 機械操作が未熟な人。
  - 妊娠している時。

服装は作業に適していますか

#### ▲警告

- 作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害をまねく事があります。次に示す服装で作業してください。
  - 袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。

- ズボンや上着は、だぶつきのないものを着用する。
- ヘルメットを着用する。
- はちまき、首巻きタオル、腰タオルなどはしない。

機械を他人に貸す時は

#### ▲警告

- 機械を他人に貸す時、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からないため、思わぬ事故を起こす事があります。取扱い方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

機械の改造禁止

#### ▲注意

- 機械の改造や、当社指定以外のアタッチメント・部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。機械の改造はしないでください。アタッチメントは、当社指定製品を使用してください。部品交換する時は、当社が指定するものを使用してください。

始業点検の励行

#### ▲注意

- 始業点検を怠ると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。作業を始める前には、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

燃料を補給する時は

#### ▲危険

- 給油口に火気を近づけると、火災になる事があります。火気に近づけないでください。給油中はエンジンを停止してください。
- 間違った燃料を入れると危険です。燃料の種類に間違いがないか、今一度確かめてください。
- エンジンに燃料を補給する時、くわえタバコや裸火照明の元で行うと燃料に引火し、ヤケドをする事があります。火気の前で燃料を補給しないでください。
- エンジンが熱い間に、給油すると引火しヤケドをする事があります。熱い間に給油しないでください。
- 燃料補給後は、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。火災事故を引き起こすおそれがあります。

### エンジン始動・発進する時は

#### ▲警告

- マフラーやエンジン周辺部にワラズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。  
引火し、火災事故を引き起こし、ヤケドをする事があります。
- 換気の悪い場所で運転すると、排気ガスにより中毒になる事があります。  
窓や戸等をあけ、十分に換気をしてください。

#### ▲注意

- エンジン始動時は、周辺の人に合図をして、安全を確認してから始動してください。
- エンジンを始動する時、機械が急に動いてケガをする事があります。  
駐車ブレーキをかけ、走行クラッチを切ってください。
- 急発進すると事故を起こす事があります。  
周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進してください。

### 公道走行禁止

#### ▲注意

- 本機はほ場内作業機です。  
公道での乗車運行はできません。  
乗車運行した場合は、道路交通法に違反します。  
一般道路を移動する時は、トラックなどで運んでください。

### トラックへの積み込み・積み降ろしをする時は

#### ▲警告

- 積み込み・積み降ろしをするときは、平坦で交通の安全な場所で、エンジンを停止し、変速を「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけて、タイヤに輪止めをしてください。  
トラックが動いて、転落事故を引き起こすおそれがあります。
- 積み込み・積み降ろし作業は、補助者を付けて、周囲の安全を十分に確認しながら行ってください。  
転落などの事故を引き起こすおそれがあります。
- 積み込み・積み降ろしに使用するアユミ板は、長さ・幅・強度が十分あり、丈夫ですべり止めのある基準に合ったものを選んでください。  
トラックの荷台に設置したときに、傾斜角度が15度以下になる長さのものを使用してください。

アユミ板が折れて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。

- アユミ板はそれぞれのクローラに合わせ、フックをトラックの荷台に確実に掛けてください。  
アユミ板がはずれて転落・転倒し、死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。
- 積み込み・積み降ろしの場合、車速は最低速度で行ってください。  
バランスを崩し転落などの事故を引き起こすおそれがあります。
- アユミ板の上では、サイドクラッチレバーを操作して進路変更を絶対におこなわないでください。  
クローラがアユミ板から外れて転落などの事故をまねくおそれがあります。
- アユミ板とトラック荷台との継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わりますので車速を最低速度で十分に注意してください。
- 積み込み・積み降ろしをするときは、作業機部を上昇（リフト）させておこなわないでください。  
必ず、下降させた状態でおこなってください。  
機械のバランスを崩し、転落などの事故を引き起こすおそれがあります。

### トラックで運搬をする時

#### ▲警告

- 本機のエンジンを停止し、走行クラッチを切り、必ず駐車ブレーキをかけ、丈夫なロープで本機をトラックと確実に固定してください。  
運搬中、荷台から機械が転落して、事故を引き起こす原因になります。
- 本機を運搬する時は、トラック積載量2.0トン以上で十分な広さを有するトラック又は、トレーラを使用し、坂道やカーブに注意して安全な速度を厳守してください。

### 移動走行する時は

#### ▲警告

- 坂道・凹凸地・急カーブで速度を出しすぎると、転倒あるいは転落事故を起こす事があります。  
低速走行してください。
- 側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路肩を移動すると転落事故を起こす事があります。  
路肩は移動しないでください。
- 高低差の大きい段差を乗り越えようとすると、転倒あるいは横転し、ケガをすること

があります。

アユミ板を使用してください。

- 作業機の上に人を乗せると転落し、ケガをする事があります。

また、物を乗せて移動すると、落下あるいは、転倒・横転し、周囲の人へケガを負わせる事があります。

作業機の上に人や物などは、乗せないでください。

#### ▲注意

- 作業機部を回転しながら移動すると、周囲の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせる事があります。

移動する時は、作業機部を回転させないでください。

- 本機はほ場内作業機です。

公道での乗車運行はできません。

乗車運行した場合は、道路交通法に違反します。

- 急制動・急旋回を行うと、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。

急制動・急旋回はしないでください。

- 畦を越える時、機械が転倒し、ケガをする事があります。

畦越えはアユミ板等を使用し、低速で畦に直角におこなってください。

- 移動走行するとき、作業機部を上昇（リフト）して走行しないでください。

必らず下降させた状態で走行してください。機械のバランスを崩し、転倒などの事故を引き起こしたり、機械の破損の原因になります。

## 作 業 中 は

作業する時は

#### ▲危険

- 運転中又は回転中、ターンテーブルなどに接触すると、ケガをする事があります。

周囲に人を近づけないでください。

- ベールを積み降ろしする時、リフトアームやターンテーブルに挟まれ、ケガをする事があります。

周囲に人を近づけないでください。

#### ▲警告

- いびつなベールをラッピングするとベールが振り落とされ、ケガをする事があります。標準回転数以下で運転してください。

- 傾斜地で荷降ろしするとベールが転がり、巻き込まれてケガをする事があります。

荷降ろしは、平坦な場所で行ってください。

- 作業中、作業機部にベールを積載しあるいは、作業機部を上昇（リフト）して畦越えをしないでください。

機械が転倒しケガをすることがあります。

- 作業機指定の回転速度を超えて作業すると、機械の破損により、ケガをする事があります。

指定回転速度を守ってください。

- 作業機の上に人を乗せると、思わぬ事故をまねく事があります。

作業機の上には、人を乗せないで下さい。

- 傾斜地で速度を出しすぎると、暴走事故をまねく事があります。

低速で作業してください。

下り作業をする時、坂の途中で変速すると、暴走する原因となります。坂の前で低速に変速して、ゆっくりとおいてください。

- わき見運転をすると、周囲の障害物の回避や、周囲の人への危険回避などができず、思わぬ事故を起こす事があります。

前方や周囲へ、十分に注意を払いながら運転してください。

- 走行中および作業中、転倒するおそれがあります。路肩付近や軟弱地では、十分注意して使用してください。

傾斜地での作業はおこなわないでください。転倒あるいは横転し、ケガをする事があります。

- 手放し運転をすると、思わぬ方向へ暴走し、事故を起こす事があります。

しっかりとサイドクラッチレバーを握って運転してください。

- ハウス内などの室内作業をする時、排気ガスにより中毒になる事があります。

窓、戸などを開け、十分に換気をしてください。

#### ▲注意

- 運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。カバーを開けないでください。

- ターンテーブルが上昇すると、ラップホルダが閉じて、ケガをする事があります。上昇させる時は、手を入れしないでください。

- フィルム巻き付け作業中、フィルムやストレッチローラに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。

作業中はさわらないでください。

- 機械の調整や、付着物の除去などを行う時、走行クラッチ及びエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。

走行クラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確かめて行ってください。

本機から離れる時は

**▲警告**

- エンジンをかけたまま本機から離れると、不意に本機が動き出し、思わぬ事故を起こすことがあります。  
エンジンを停止し、走行クラッチを切り、駐車ブレーキをかけてください。
- 本機から離れる時、作業機部を上昇（リフト）させたままにしておくと、第三者の不注意により不意に下降し、ケガをする事があります。  
作業機部を下降させた状態で本機から離れてください。

**作業が終わったら**

機体を清掃する時は

**▲注意**

- 本機の調整や、付着物の除去などを行う時、走行クラッチ及びエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に本機が動きだし、思わぬ事故を起こす事があります。  
走行クラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。
- マフラーに触れるとヤケドをする事があります。  
マフラーには触れないでください。
- 高圧洗車機等で本機を洗車すると、バッテリー、ブザー、エンジン、作業機部操作盤等に水が入り、破損の原因となります。  
洗車等、水がかからない様に注意してください。

終業点検の励行

**▲注意**

- 作業後の点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをする事があります。  
作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

**不調処置・点検・整備をする時**

**▲警告**

- 作業機部を上昇（リフト）させての点検・調整中、不意に作業機部が下降しケガをする事があります。  
油圧シリンダに安全ストッパーを掛け、確実にロックしてください。  
又、点検・調整中は作業機部が高所にあります。  
頭上に注意してください。

**▲注意**

- 機械に異常が生じた時、そのまま放置すると、破損やケガをする事があります。  
取扱説明書に基づき行ってください。
- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、本機が不意に動き出して思わぬ事故を起こす事があります。  
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 走行クラッチおよびエンジンをとめず点検・整備すると、第三者の不注意により、不意に本機が動き出して思わぬ事故を起こす事があります。  
走行クラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。
- マフラーに触れるとヤケドをする事があります。  
マフラーに触れないでください。
- 油圧の継手やホースに、ゆるみや損傷があると、飛び出る高圧オイルで、ケガをする事があります。  
補修もしくは部品交換をしてください。  
継手やホースを外す時は、油圧回路内の圧力を無くしてから行ってください。
- 不調処置・点検・整備のために外したカバー類を取り付けずに作業すると、回転部や可動部に巻き込まれ、ケガをする事があります。  
元通りに取り付けてください。

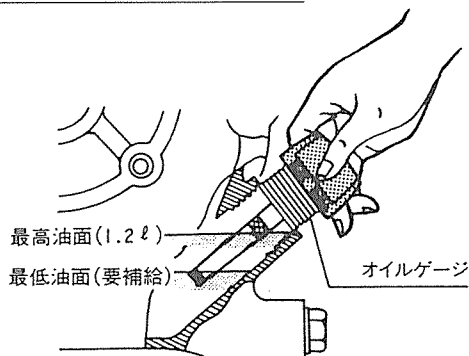


## ● 初めて使用する前に

初めて使用する前に次のことを行ってください。

### 1. エンジンオイルを点検してください。

- エンジンオイルが規定量入っているか点検し、少ない場合は正規油面まで補充してください。機体が水平状態で、エンジンオイル注入口からオイルゲージをねじ込まないで計り、オイルゲージの上のきざみ線まで入れてください。オイル容量は約1.2ℓです。



- オイルは外気温に応じ、下表粘度の自動車用エンジンオイルを使用してください。

オイル粘度の選定基準

	5W						
		10W					
			20W				
シングル グレード			≒ 20				
				≒ 30			
					≒ 40		
マルチ グレード			10W-30				
外気温度	-20	-10	0	10	20	30	40 C

### 取扱い上の注意

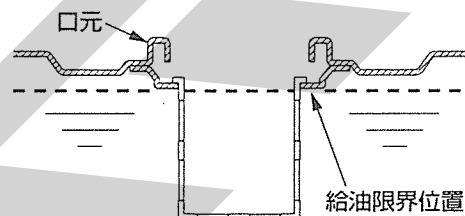
- エンジンオイルの質及び、量の低下は焼付けトラブルをまねきます。オイルの品質はSE又は、SF級の良質のものを使用してください。
- 外気温度が-20℃以下及び、40℃以上の場合は、現地に適合した粘度・品質のものを使用してください。
- マルチグレードを使用の場合、外気温度が高いときオイルの消費量が増す傾向にありますので注意願います。

### 2. 燃料の量を点検してください。

- 燃料タンクに燃料が入っているか、燃料ゲージにて点検し補給してください。
- 燃料は「**自動車用無鉛ガソリン**」を使用。タンク容量は約7ℓです。

### 取扱い上の注意

- 燃料は給油口の口元まで入れず、所定の給油限度位置以内で補給してください。いれすぎると燃料タンクキャップから燃料がにじみ出ることがあり危険です。



- 燃料給油時には、給油口に装着してある燃料コシ網を必ず使用してください。

### ▲ 危険

- 給油口に火気を近づけると、火災になる事があります。火気に近づけないでください。給油中はエンジンを停止してください。
- 間違った燃料を入れると危険です。燃料の種類に間違いがないか、今一度確かめてください。
- エンジンに燃料を補給する時、くわえタバコや裸火照明の元で行うと燃料が引火し、ヤケドをすることがあります。火気の前で燃料を補給しないでください。
- エンジンが熱い間に、給油すると引火しヤケドをすることがあります。熱い間は給油しないでください。
- 燃料補給後は、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。火災事故を引き起こすおそれがあります。

# も く じ

<b>▲</b>	<b>安全に作業するために</b>			
	安全に関する警告について	1	作業が終わったら	6
	作業前に	3	不調処置・点検・整備をする時	6
	作業中は	5		
<b>●</b>	<b>初めて使用する前に</b>	7		
<b>1</b>	<b>各部の名称と運転</b>			
	1 各部の名称とはたらき	10	2 運転の仕方	12
<b>2</b>	<b>運転を始める前の点検</b>			
	1 運転前の点検	16	3 給油箇所一覧表	18
	2 エンジン始動での点検	17		
<b>3</b>	<b>運搬の仕方</b>			
	1 積み込み方	20	2 降ろし方	20
<b>4</b>	<b>作業の仕方</b>			
	1 本製品の使用目的	21	3 作業要領	23
	2 作業をするための調整	21		

## 5 作業が終わったら

1 作業後の手入れ	31	2 長期格納する時	31
-----------	----	-----------	----

## 6 点検と整備について

1 点検整備一覧表	32	4 作業機部制御盤配線図	38
2 各部の点検・調整	33	5 作業機部配線図	39
3 走行部配線図	37	6 油圧配管図	40

## 7 不調時の対応

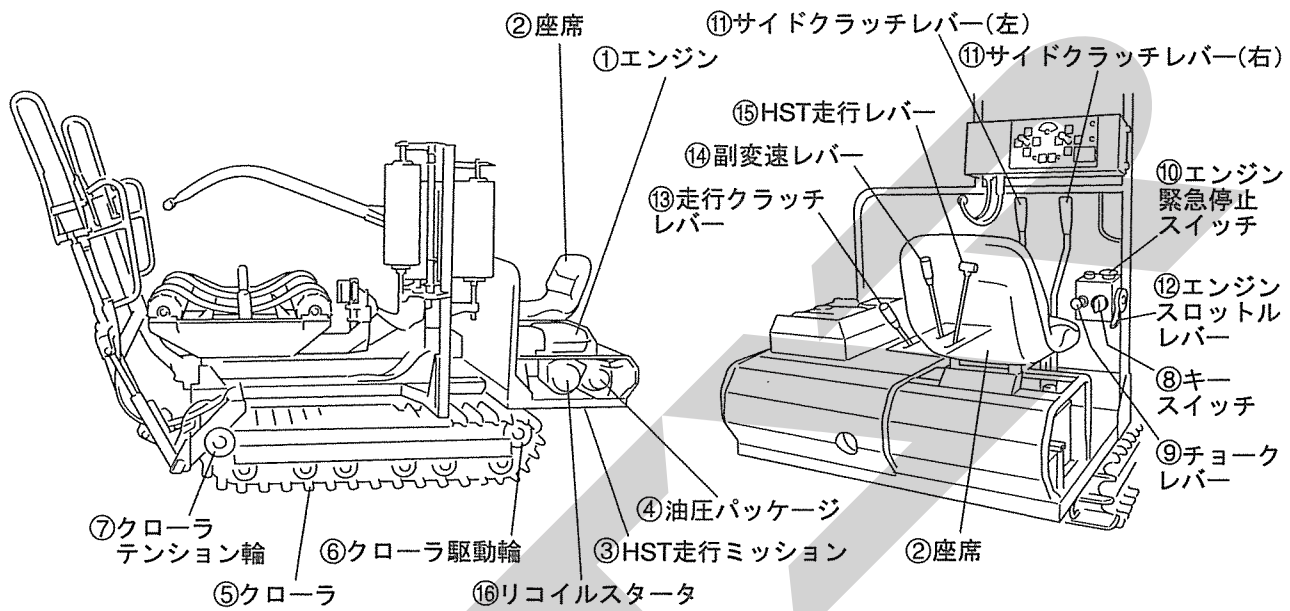
1 不調処置一覧表	41
-----------	----

# 1 各部の名称と運転

適切な装着で安全な作業をしましょう。

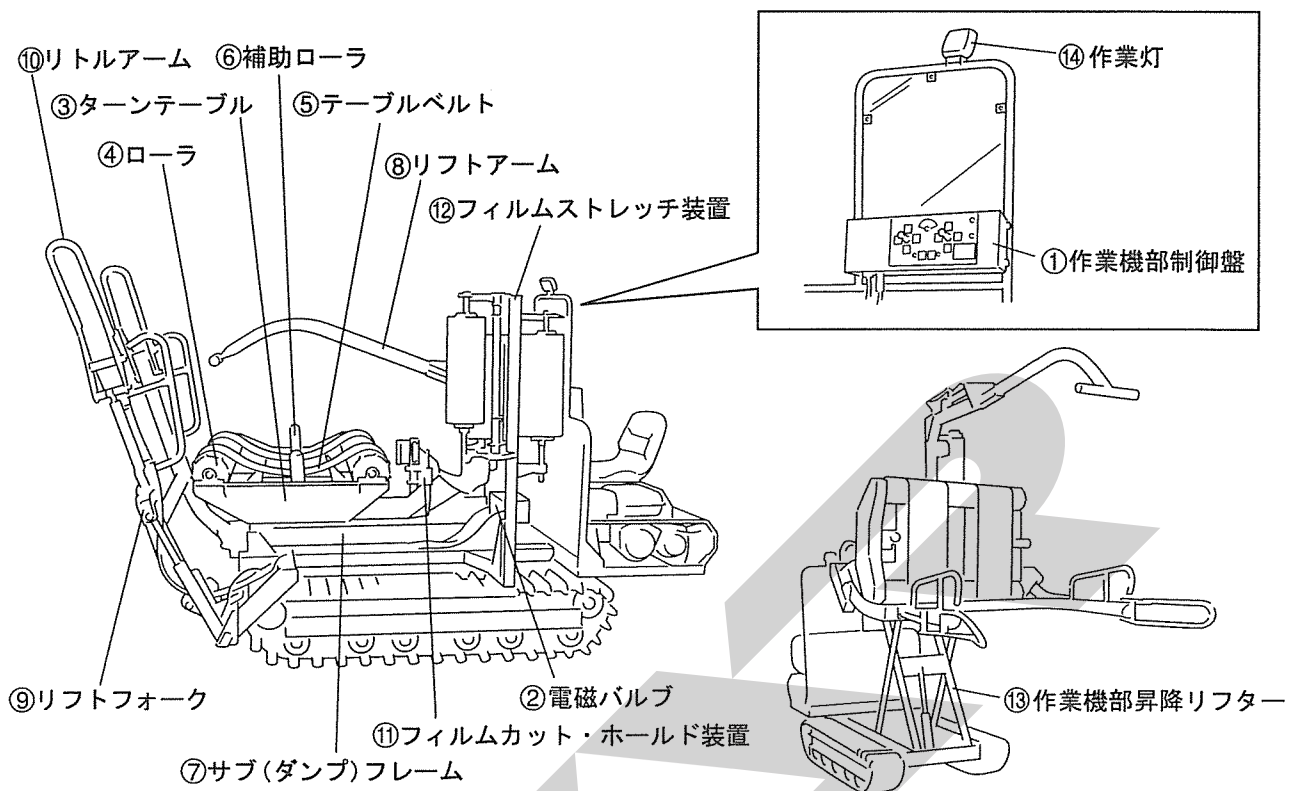
## 1 各部の名称とはたらき

### 1. 走行部



- ① エンジン  
走行・作業機部の動力源です。
- ② 座席  
走行中・作業中に腰かける部分です。
- ③ HST走行ミッション  
走行駆動用トランスミッションです。
- ④ 油圧パッケージ  
作業機部の動力源となる油圧発生装置です。
- ⑤ クローラ  
走行のためのゴム製の履帯です。
- ⑥ クローラ駆動輪  
クローラを駆動させるための駆動輪です。
- ⑦ クローラテンション輪  
クローラの張り加減を調節します。
- ⑧ キースイッチ  
エンジンの始動・停止に使用します。
- ⑨ チョークレバー  
エンジン始動時に使用します。
- ⑩ エンジン緊急停止スイッチ  
作業中、緊急でエンジンを停止する時に使用します。
- ⑪ サイドクラッチレバー (右・左)  
本機を左右に旋回させる時に使用します。
- ⑫ エンジンスロットルレバー  
エンジンの回転速度を調節します。
- ⑬ 走行クラッチレバー  
本機を前後に走行・停止させる時ならば、駐車ブレーキに使用します。
- ⑭ 副変速レバー  
走行速度を高速・低速に切り換える時に使用します。
- ⑮ HST走行レバー  
前進・後進の速度を調節する時に使用します。
- ⑯ リコイルスタータ  
手でエンジンを始動する時に使用します。

## 2. 作業機部



### ① 作業基部制御盤

運転席座上から、スイッチの操作により電磁バルブを制御し作業機部を作動させる装置です。

### ② 電磁バルブ

油圧パッケージからの高圧油を制御する切り換えバルブです。

### ③ ターンテーブル

ラッピングするベールを積載し、回転させる場所です。

### ④ ローラ

積載されたベールを支え転がします。

### ⑤ テーブルベルト

積載されたベールを安定よく転がします。

### ⑥ 補助ローラ

積載されたベール側面を支え、ベールの落下を防ぐローラです。

### ⑦ サブ(ダンプ)フレーム

ベールを積み込み又は、荷降しするとき傾けるフレームです。

### ⑧ リフトアーム

ベールを積み込み又は、荷降しするとき、ベールを押しこみます。

### ⑨ リフトフォーク

### ⑩ リトルアーム

ベールを積み込む時、ベールをはさみ、押しこみます。

### ⑪ フィルムカット・ホールド装置

ラッピング終了後、フィルムを切断・保持します。

### ⑫ フィルムストレッチ装置

フィルムを装着し、フィルムの引き出される力で駆動されたローラによりフィルムを引き伸ばします。

### ⑬ 作業機部昇降リフター

トラック荷台へベールを荷降しする時、作業機部を昇降させる装置です。

### ⑭ 作業灯

夜間作業時、作業機部を照らす照明器具です。

## 2 運転の仕方

- エンジンに付属された取扱説明書を熟読の上、エンジンを操作してください。

### ▲ 警告

- 換気の悪い場所で運転すると、排気ガスにより中毒になる事があります。窓や戸等をあけ、十分に換気をしてください。

### ▲ 注意

- エンジンを始動する時、機械が急に動いてケガをする事があります。駐車ブレーキをかけ、作業クラッチを切ってください。
- 作業クラッチを切らないでエンジンを始動すると、急にピックアップやローラが駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。作業クラッチを切ってから始動してください。
- 急発進すると事故を起こす事があります。周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進してください。

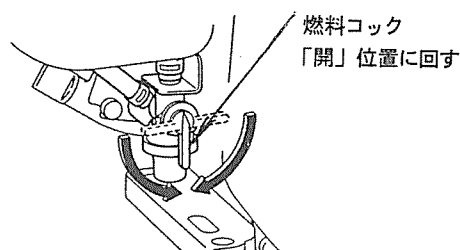
### 1. 走行の仕方

- (1) 燃料の量を点検し、少ない場合は燃料を補給してください。

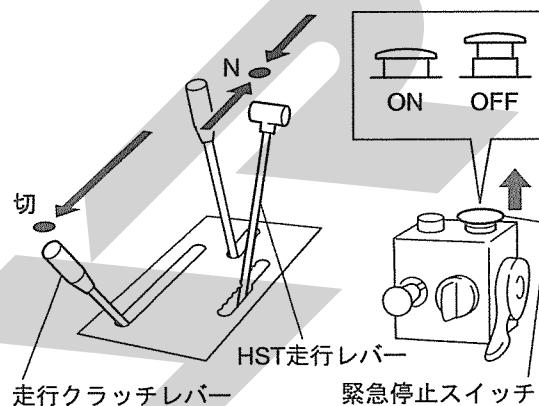
### ▲ 危険

- 給油口に火気を近づけると火災になる事があります。火気を近づけないでください。給油中はエンジンを停止してください。
- 間違った燃料を入れると危険です。燃料の種類に間違いがないか、今一度確かめてください。
- エンジンに燃料を補給する時、くわえタバコや裸火照明の元で行うと燃料に引火し、ヤケドをする事があります。火気の中で燃料を補給しないでください。
- エンジンが熱い間に、給油すると引火しヤケドをする事があります。熱い間は給油しないでください。
- 燃料補給後は、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。火災事故を引き起こすおそれがあります。

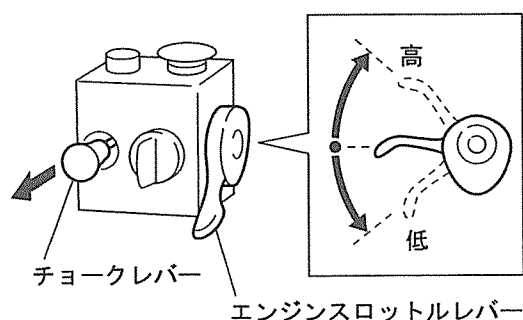
- (2) エンジンの燃料コックを開きます。



- (3) 走行クラッチレバーを「切」の位置、HST走行レバーを「N」の位置にします。緊急停止スイッチを「OFF」の状態にします。



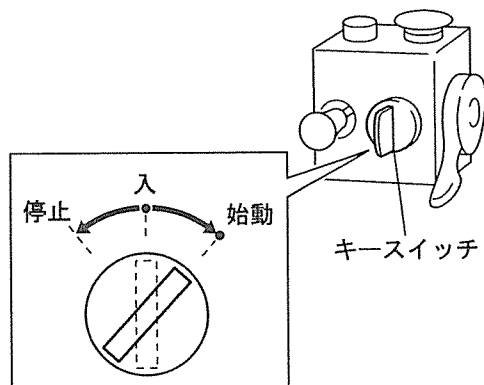
- (4) チョークレバーを引き、エンジンスロットルレバーを低回転と高回転の中間の位置にします。



### 取扱い上の注意

- 暖かい時や運転停止直後再始動する場合は、チョークレバーは使用しない。

- (5) キースイッチを「入」位置にし、「始動」側に回し、エンジンを始動させます。



**取扱い上の注意**

- エンジン始動用セルモータは、大電流を消費しますので10秒以上の連続使用はしないでください。  
10秒以内で始動しなかった場合は、いったんキースイッチを「切」位置に戻し、1分以上経ってから、再び始動してください。
- キースイッチを「入」位置にいますと、HST走行用油圧油の冷却ファンが作動します。  
エンジンを始動させず長時間キースイッチを「入」の状態にしておくと、バッテリーの容量不足となります。

- (6) エンジンが始動したら、すみやかにキースイッチから手を離してください。

**取扱い上の注意**

- エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「始動」位置にしないでください。  
セルモータが破損することがあります。

- (7) エンジンが始動したらチョークレバーを元の位置まで押し戻します。

**取扱い上の注意**

- チョークレバーはエンジンの調子をみながら徐々に戻し、最後には必ず全部戻してエンジン側チョークを全開にしてください。
- 寒い時又は、エンジンが冷えている時は、急にチョークレバーを戻すと、エンジンが停止することがあります。

- (8) スロットルレバーを低回転位置まで戻し、負荷をかけずに1～2分程暖機運転をしてください。

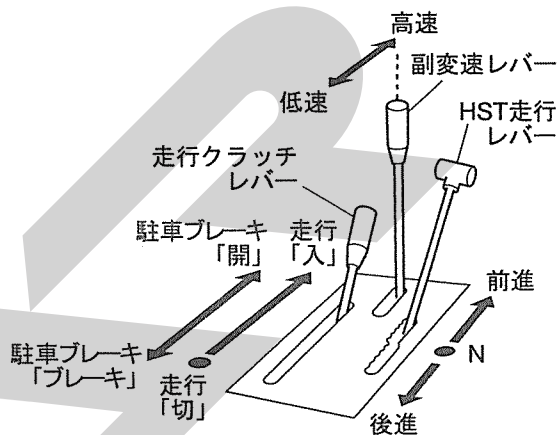
- (9) スロットルレバーを高回転の位置まで回し、エンジンの回転速度を上げます。

**取扱い上の注意**

- 作業を中断する時は、その都度スロットルレバーを低回転側に戻してください。  
燃料の節約のみならず、エンジンの寿命にも好影響を与えます。

- (10) 副変速レバーを「低速」又は、「高速」の位置及び、走行クラッチレバーを「入」の位置にします。

HSTレバーを「前進」又は、「後進」に入れると、本機が走行します。



**取扱い上の注意**

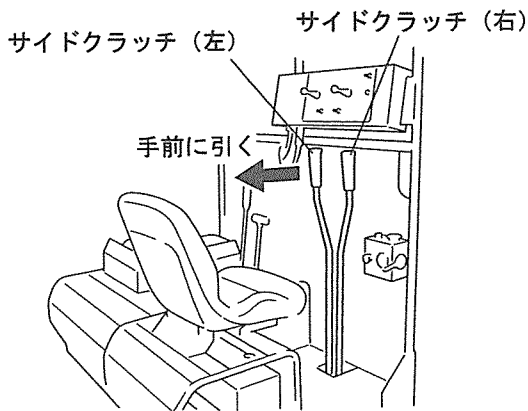
- 副変速レバーの「低速」又は、「高速」の切り換えは、走行クラッチレバー「切」及び、HSTレバーを「N」の位置にしてからおこなってください。  
HST走行ミッションの破損の原因となります。
- HSTレバーは、レバーの傾むけ加減に応じて、前進・後進とも無段階に車速が変わります。  
作業状態や走行路面に応じて安全な速度に調節してください。
- 寒冷時には、HST走行ミッションのオイルが暖まるまで、暖機運転をおこなってください。

走行速度の目安

	副変速レバー位置	
	低速	高速
前進	0～1.38m/s (0～5.0km/h)	0～1.94m/s (0～7.0km/h)
後進	0～0.97m/s (0～3.5km/h)	0～1.66m/s (0～6.0km/h)

※走行速度は、使用条件により異なります。

- (1) 右側のサイドクラッチレバーを手前に引くと、機体は右側に旋回し、左側のサイドクラッチレバーを手前に引くと、機体は左側に旋回します。



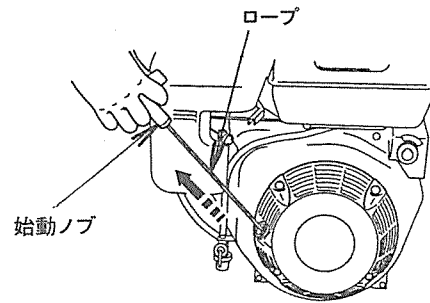
#### 取扱い上の注意

- 機体の旋回量は、左右のサイドクラッチレバーの引き加減で調節します。高速走行時又は、軟弱地や傾斜地でサイドクラッチレバーを強く引くと急旋回して危険ですので注意してください。
- 作業状態や走行路面状態により、急旋回した場合、エンジンが停止することがあります。エンジンが停止しないようサイドクラッチレバーの引き加減を調節し旋回してください。
- 砂利道の急旋回は、クローラに石がかみ込む恐れがあるので急旋回はしないでください。
- 旋回時片側のクローラを畦に乗りあげたり、畦ぎわでの急旋回は機体の転倒あるいは、クローラが外れたりする事があります。絶対おこなわないでください。

## 2. リコイルスタータでの始動要領

バッテリーの容量不足でエンジンを始動できない場合は、次の要領で始動してください。

- (1) エンジン燃料コックを開きます。
- (2) 走行クラッチレバーを「切」位置、HST 走行レバーを「N」の位置にします。  
又、緊急停止スイッチを「OFF」の状態にします。
- (3) チョークレバーを引き、エンジンスロットルレバーを低回転と高回転の中間の位置にします。
- (4) キースイッチを「入」位置にします。
- (5) リコイルスタータを勢いよく引きます。



#### 取扱い上の注意

- リコイルスタータの始動ノブをゆっくり引いてゆくと重くなる所（圧縮点）があります。さらに少し引くと一度軽くなります。そこから始動ノブを一旦元に戻し、勢いよく引きます。
- 始動ノブのロープは一杯に引ききらないでください。
- 引いた始動ノブは、その位置から手離さずに、しずかに元に戻してください。

- (6) エンジンが始動したらチョークレバーを元の位置まで押し戻します。

#### 取扱い上の注意

- チョークレバーはエンジンの調子をみながら徐々に戻し、最後には必ず全部戻してエンジン側チョークを全開にしてください。
- 寒い時又は、エンジンが冷えている時は、急にチョークレバーを戻すとエンジンが停止することがあります。

- (7) スロットルレバーを低回転位置まで戻し、負荷をかけずに1～2分程暖機運転をしてください。

- (8) スロットルレバーを高回転の位置まで回し、エンジンの回転速度を上げます。

#### 取扱い上の注意

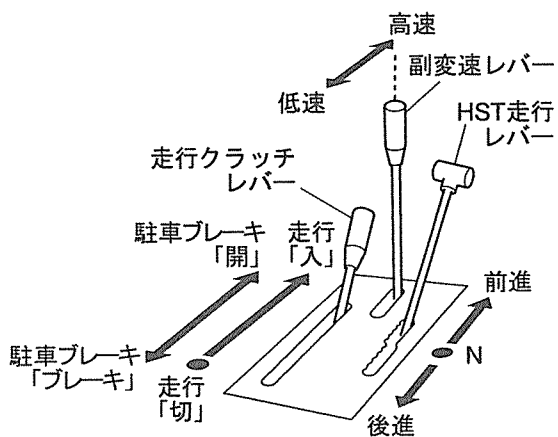
- 作業を中断する時は、その都度スロットルレバーを低回転側に戻してください。燃料の節約のみならず、エンジンの寿命にも好影響を与えます。



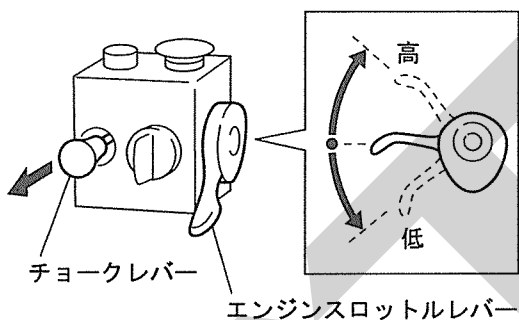
### 3. 停止の仕方

(1) HSTレバーを「N」の位置にし、本機の走行を停止します。

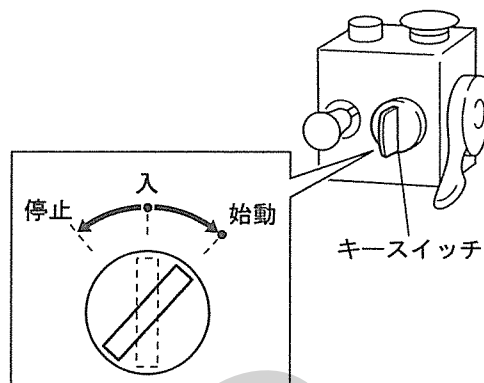
本機の走行がとまったら、走行クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキを掛けます。



(2) エンジンスロットルレバーを「低回転」側へ動かします。



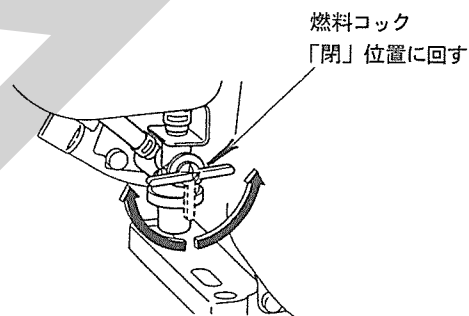
(3) キースイッチを「停止」側に回し、エンジンを停止します。



#### 取扱い上の注意

- キースイッチを「入」位置にしておくとバッテリーの容量不足となります。必ず「停止」位置にしてください。

(4) エンジンの燃料コックを「閉」の位置にします。



## 2 運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため、作業前に必ず行いましょう。

### 1 運転前の点検

#### 1. 製品本体の点検

- (1) 各部のボルト・ナットにゆるみがないか。  
又、ピン類の脱落はないか。  
不具合が見つかった時は、増し締め又は、補修してください。
- (2) 各部に牧草・ワラの詰まり又は、トワインの巻き付きがないか。  
詰まり・巻き付きがある時は、除去してください。
- (3) チェーンの張り過ぎ又は、ゆるみすぎがないか。
- (4) 油圧配管系統（油圧ホース・油圧金具・油圧モータ・油圧シリンダ）で破損又は、油漏れがないか。  
不具合が見つかったときは「7-1 不調処理一覧表」に基づき処置してください。
- (5) 各部の給油は十分か。  
油脂が不足している時は、「2-3 給油箇所一覧表」の説明に基づき給油してください。
- (6) 油圧パッケージ駆動用ベルトは正規の状態に調整されているか。
- (7) クローラは、正規の状態に調整されているか。  
不具合が見つかった時は、「6-2-4 クローラの張り調整」の説明に基づき調整してください。
- (8) サイドクラッチレバー（右・左）は、正規の状態に調整されているか。  
不具合が見つかった時は、「6-2-7 サイドクラッチレバーの調整」の説明に基づき調整してください。
- (9) 走行クラッチレバーは、正規の状態に調整されているか。  
不具合が見つかった時は、「6-2-5 走行クラッチレバーの調整」・「6-2-6 駐車ブレーキの調整」の説明に基づき調整してください。

#### 2. エンジンの点検

エンジンに付属された取扱説明書に基づき、エンジン運動前の点検を行ってください。

##### ▲ 注意

- エンジンを始動する時、機械が急に動いてケガをする事があります。  
駐車ブレーキをかけ、作業クラッチを切ってから始動してください。

##### ▲ 警告

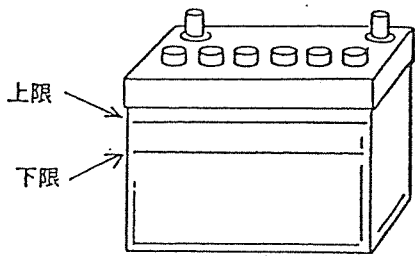
- マフラーやエンジン周辺部にワラクス・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。  
引火し、火災事故を引き起こし、ヤケドをする事があります。

#### 3. バッテリーの点検

##### ▲ 危険

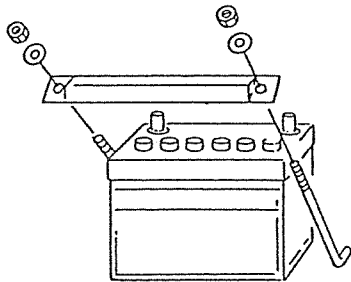
- バッテリーは水素ガスの発生があり、取扱いを誤ると引火爆発のおそれがあります。
- この12Vバッテリーはエンジン始動用です。他の用途には使用しないでください。
- 充電は風通しの良い所で行い、ショートやスパークをさせないでください。
- ブースタケーブルの使用は、危険のないように取り扱ってください。
- バッテリー液（希硫酸）で失明やヤケドをする事があります。  
目・皮膚・衣類・物についたときはすぐに多量の水で洗い、飲み込んだ時はすぐに多量の飲料水を飲んでください。  
目に入った時や飲み込んだ時は、医師の治療を受けてください。
- 液面がLOWER LEVEL近くになったら補水し、UPPER LEVEL以上入れないでください。

- (1) 機体を水平な状態にして、バッテリーの電解液面の位置を確認します。  
上限と下限の間であれば適正です。  
下限より低い場合は、精製水を補充してください。

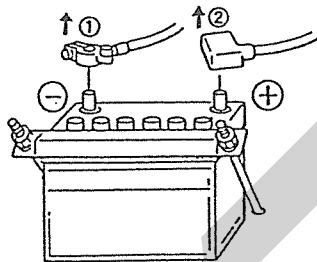


## (2) 充電の仕方

- ① バッテリーの固定金具を外します。



- ② バッテリーの(-)端子を取外します。  
次に(+)端子を取外します。



- ③ バッテリーを本機から外し、平坦で乾燥した日陰で充電器にて充電してください。  
充電要領は、充電器の取扱説明書に基づきおこなってください。
- ④ 充電がおわったら、取外しの反対の手順で本機に取付けてください。

### 取扱い上の注意

- バッテリー液は、常に規定量を保ってください。
- バッテリー液は、液面レベルの上限以上入れないでください。  
使用中に液モレし、本機を腐食させることがあります。
- 寒冷地などの気温の低い地域、又は、エンジンの始動がしにくくなったり、作業灯が暗くなってきましたら、充電をおこなってください。  
また、2週間以上運転しないと、バッテリーの放電によりセルスタータでの始動ができない場合があります。  
このときにも充電をしてください。
- 本機を長時間使用しない時は、最低1ヶ月

に1回は充電をしてください。

バッテリーが長持ちします。

- バッテリー取付け時、ターミナル接続部の油などを拭きとりバッテリー端子に確実に締めつけてください。  
腐食防止のため、ターミナル部にグリースを塗布してください。

## 2 エンジン始動での点検

### ▲ 警告

- 換気の悪い場所で運転すると、排気ガスにより中毒になる事があります。  
窓や戸等をあけ、十分に換気をしてください。

### ▲ 注意

- エンジン始動時は、周囲の人に合図をして、安全を確認してから始動してください。
- エンジンを始動する時、機械が急に動いてケガをする事があります。  
駐車ブレーキをかけ、走行クラッチを切ってください。

### 1. 作業機部油圧系統の点検

- (1) エンジンを始動しエンジン回転速度を低速にて「4-3-2 作業機部制御盤の操作方法」に基づき操作してください。

この時、油圧ホース・油圧モータ・油圧シリンダから油漏れがないか確認してください。

### 2. 作業機部電気系統の点検

- (1) 「4-3-2 作業機部制御盤の操作方法」に基づき操作した時、表示通りに作動するか確認してください。

### ▲ 危険

- 運転中又は回転中、ターンテーブルなどに接触すると、ケガをすることがあります。  
周囲に人を近づけないでください。

不具合が見つかった時は「7-1 不調処置一覧表」に基づき処置してください。

### 3 給油箇所一覧表

- 給油、塗布するオイルは清浄なものを使用してください。  
 ○グリースを給脂する場合は、古いグリースが排出され新しいグリースが出るまでです。  
 ○出荷には、十分給油してありますが、使用前に確認してください。

No.	給油箇所	給油数	潤滑油の種類	給油時間	備考
1	エンジンオイル	1	マルチグレード10W-30 規定量; 1.2ℓ	使用初期20時間目	交換 点検・補給
				その後は、50時間毎 毎日8時間毎	
2	走行ミッションオイル	1	トランスミッション フルードTF300 (ヤンマー純正オイル) 規定量; 5.5ℓ	使用初期50時間目	交換
				その後は、100時間毎	
3	HSTオイル	1	ギヤオイル#46 規定量; 8ℓ	使用ごと	点検・補給
				その後は、500時間毎	交換
4	油圧パッケージ	1	油圧作動油 ISO VG46 規定量; 3ℓ	使用初期20時間目	交換 点検・補給
				その後は、50時間毎 使用ごと	
5	転輪・遊動輪		グリース	使用ごと	
6	ギヤ(ターンテーブル)	1	〃	30時間毎	
7	旋回ベアリングギヤ	1	〃	〃	
8	旋回ベアリング	1	〃	使用ごと	
9	サブ(ダンプ)フレーム回動支点ピン	2	〃	〃	
10	ダンプシリンダピン	2	〃	〃	
11	リフトアーム回動支点ピン	1	〃	〃	
12	リフトアームシリンダピン	2	〃	〃	
13	リフトフォーク回動支点ピン	2	〃	〃	
14	リフトフォークシリンダピン	2	〃	〃	
15	リトルアーム回動支点ピン	2	〃	〃	
16	リトルアームシリンダピン	2	〃	〃	
17	作業機部昇降リフタシリンダピン	2	〃	〃	
18	ターンテーブルローラ駆動チェーン	1	オイル	〃	
19	ターンテーブル補助ローラ軸	2	グリース	〃	
20	ターンテーブルカム作動用ピン	1	〃	〃	
21	ターンテーブルカム(ピン・ストップ接触部)	1	グリース塗布	〃	
22	ターンテーブルカム(ピン回動支点部)	1	オイル	〃	
23	フィルムカットホールドアーム回動支点	2	〃	〃	
24	カム解除アーム回動支点	1	〃	〃	
25	ラップホルダアーム滑動部	1	グリース	〃	
26	ラップホルダアーム回動支点部	1	オイル	〃	
27	ラップホルダ回動支点部	1	〃	〃	
28	その他軸受・滑動部	—	グリース又は、オイル	〃	

### 3 運搬の仕方

#### ▲ 注意

- 本機はほ場内作業機です。公道での乗車運行はできません。乗車運行した場合は、道路交通法に違反します。一般道路を移動する時は、トラックなどで運んでください。

#### ◎トラックへの積み込み・積み降ろしをする時は

#### ▲ 警告

- 積み込み・積み降ろしをするときは、平坦で交通の安全な場所で、エンジンを停止し、変速を「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけて、タイヤに輪止めをしてください。トラックが動いて、転落事故を引き起こすおそれがあります。
- 積み込み・積み降ろし作業は、補助者を付けて、周囲の安全を十分に確認しながら行ってください。転落などの事故を引き起こすおそれがあります。
- 積み込み・積み降ろしに使用するアユミ板は、長さ・幅・強度が充分あり、丈夫ですべり止めのある基準に合ったものを選んでください。トラックの荷台に設置したときに、傾斜角度が15度以下になる長さのものを使用してください。アユミ板が折れて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。
- アユミ板はそれぞれのクローラに合わせ、フックをトラックの荷台に確実に掛けてください。アユミ板がはずれて転落・転倒し、死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。
- 積み込み・積み降ろしの場合、車速は最低速度で行ってください。バランスを崩し転落などの事故を引き起こすおそれがあります。
- アユミ板の上では、サイドクラッチレバーを操作して進路変更を絶対におこなわないでください。クローラがアユミ板から外れて転落などの事故をまねくおそれがあります。

- アユミ板とトラック荷台との継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わりますので車速を最低速度で十分に注意してください。
- 積み込み・積み降ろしをするときは、作業機部を上昇（リフト）させておこなわないでください。必ず、下降させた状態でおこなってください。機械のバランスを崩し、転落などの事故を引き起こすおそれがあります。

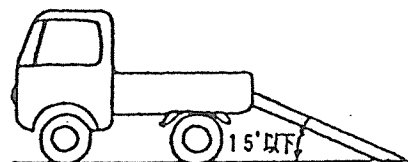
#### ◎トラックで運搬をする時

#### ▲ 警告

- 本機のエンジンを停止し、走行クラッチを切り、駐車ブレーキを必ずかけ、丈夫なロープで本機をトラックと確実に固定してください。運搬中、荷台から機械が転落して、事故を引き起こす原因になります。
- 本機を運搬する時は、トラック積載量2.0トン以上で十分な広さを有するトラック又は、トレーラを使用し、坂道やカーブに注意して安全な速度を厳守してください。

本機の運搬は、本機の寸法および重量の積載を満足するトラック又は、トレーラを使用してください。

積込用のアユミ板は、積載荷重が2.0以上で、本機の傾斜が15°以下となる長さ（荷台の高さの4倍以上）で幅45cm以上のものを使用してください。



## 1 積み込み方

1. アユミ板の幅とクローラ幅の中心を合うように合わせトラック荷台に掛けます。  
この時、アユミ板がトラック荷台から外れないよう確実に掛けてください。
2. 本機をアユミ板と並行になるよう、低速で走行します。  
この時、エンジンスロットルレバーは高回転にて、HST走行レバーにて車速を調整してください。
3. 本機をアユミ板に載せてトラック荷台に安全に載るまでは、本機の走行速度は低速で走行してください。
4. 本機がトラック荷台に完全に載ったら走行を停止し、HST走行レバーを「N」・走行クラッチレバーを「切」にして駐車ブレーキを掛けます。
5. エンジンスロットルレバーを「低回転」にして、エンジンを停止します。
6. 本機がトラック荷台上で移動しないよう、丈夫なロープで固定してください。

## 2 降ろし方

1. 本機を固定したロープを取り外し、アユミ板をトラック荷台に掛けます。
2. エンジンを始動させ、本機とアユミ板と平行になるよう低速で走行します。  
この時、エンジンスロットルレバーは高回転にて、HST走行レバーにて車速を調整してください。
3. 本機をアユミ板に載せて地面に完全に降りるまでは、本機の走行速度は低速で走行してください。
4. 本機が地面に完全に降りたら走行を停止し、HST走行レバーを「N」・走行クラッチレバーを「切」にして駐車ブレーキを掛けます。
5. エンジンスロットルレバーを「低回転」にして、エンジンを停止します。

## 4 作業の仕方

### 1 本製品の使用目的

1. 本製品は、家畜飼料用ベールサイレージ作りのため、円柱形ベールにフィルムを引き伸ばし巻き付け密封する機械です。  
他の用途には、使用しないでください。
2. 良質なサイレージを作るため雨降り時や濃霧状態で牧草水分が多くなる場合や、ぬかるみのあるほ場、湿気の高いほ場では、作業を行わないでください。  
ほ場が良く乾き、適正な水分で、梱包後早期にラッピング作業を行ってください。

#### 良質なラップサイレージ作りをするために

1. 牧草水分は、50～60%に調整。  
水分は多すぎても少なすぎても理想的な乳酸発酵は行われません。  
特に雨降りや濃霧の場合、水分が多くなるので作業は行わないでください。
2. 形の良いベール作り。  
集草作業は、均一なウインドローを作り、梱包作業は車速を控めとし、左右に蛇行運転を行い、密度の高い形の良いベール作りに心掛けてください。
3. 梱包後早期密封。  
密封が遅れると、ベール内温度が上昇し、腐敗菌が増殖されるとともに、タンパク質が熱変性し、消化率が低下し、良質なサイレージができません。
4. 品質の安定したラップフィルムを使用。  
気温の変化で性質が大きく変化するようなフィルムは、密封精度が劣る場合があります。  
フィルムは、保管中の変質を避けることから、直射日光の当たらない涼しい場所に保管し、長期保存は避けてください。
5. 密封後のフィルムの損傷穴は必ず補修。  
誤ってフィルムに傷をつけたり、穴があった場合は、必ず補修をしてください。  
普通のテープ類を使用しますと、水分・太陽熱等によりはがれる恐れがあります。当社指定の補修用フィルムを使用してください。

### 6. 確実な保管。

貯蔵場所は水はけの良い場所を選び、鳥・ネズミ・虫などの害から守るため、ネットで覆ったり、薬剤を撒くなどの工夫が必要です。

貯蔵時の積み上げは密封精度を維持し、保管場所も少なく済む事から2～3段程度の縦積みが理想的です。

荷くずれのしない安定した安全な積み上げ段数としてください。

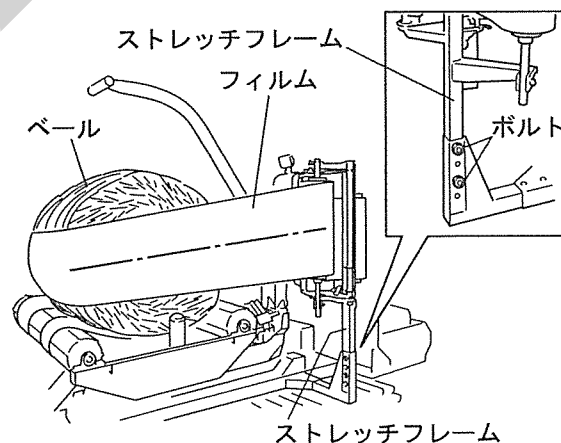
### 7. 開封後は、その日のうちに全量給餌。

サイレージは空気に触れると二次発酵を起こし変質が進みます。

### 2 作業をするための調整

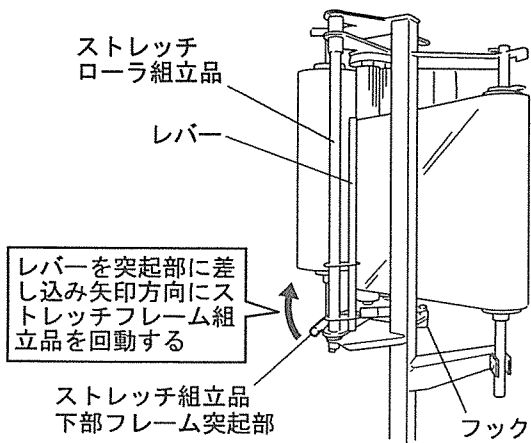
#### 1. ストレッチ高さの調整

ベール中心にフィルム幅の中心が一致するようにストレッチフレームを上下させボルトで固定します。

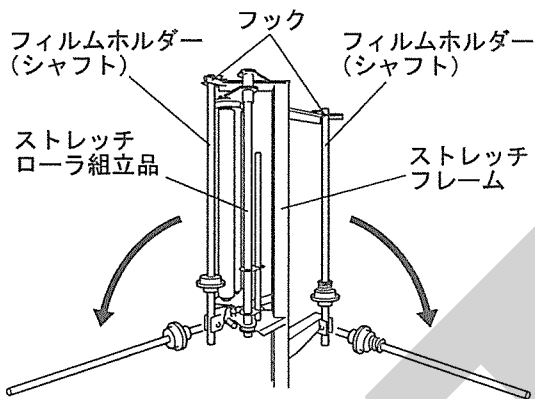


#### 2. フィルムの装着

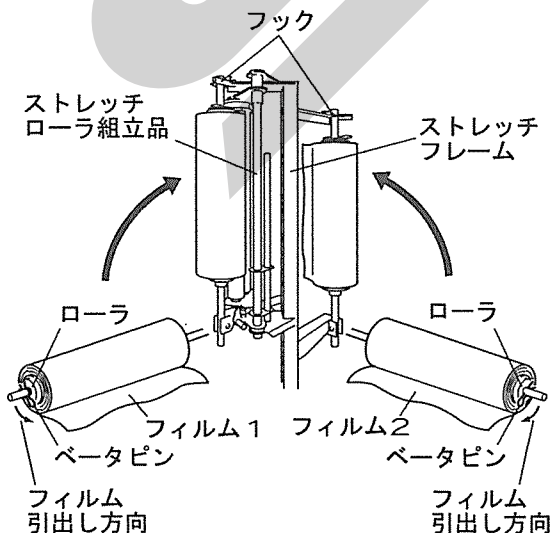
- (1) レバーをストレッチローラ組立品より抜き外し、ストレッチローラ組立品下側フレーム突起部に差し込み回転し、フックでロックします。



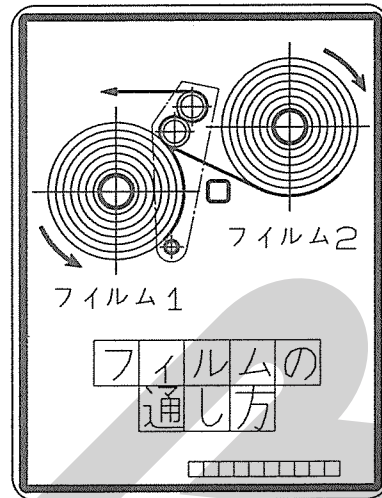
- (2) フィルムホルダー（シャフト）をストレッチフレーム上部フック部より外し、手前側に倒します。



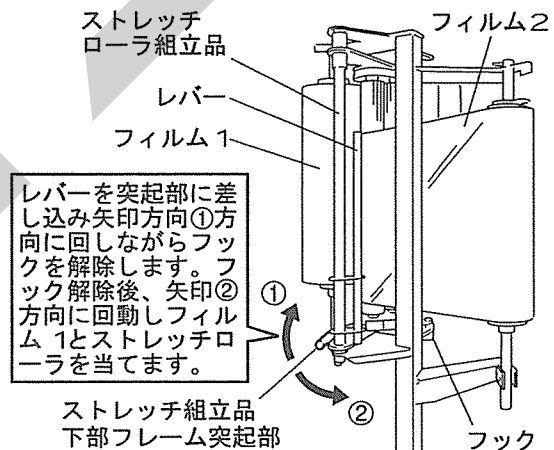
- (3) フィルムホルダー（シャフト）より、ベータピン・ローラを抜き取りフィルムを挿入します。  
フィルム挿入後、ローラ・ベータピンを挿入し、上方に押し上げ、フィルムホルダ（シャフト）上部でストレッチフレーム上部フックと固定します。



- (4) フィルムは、巻き方向が上から見てフィルム1は、反時計方向・フィルム2は、時計方向になるよう挿入し、フィルム1とフィルム2を重ねストレッチローラに通します。



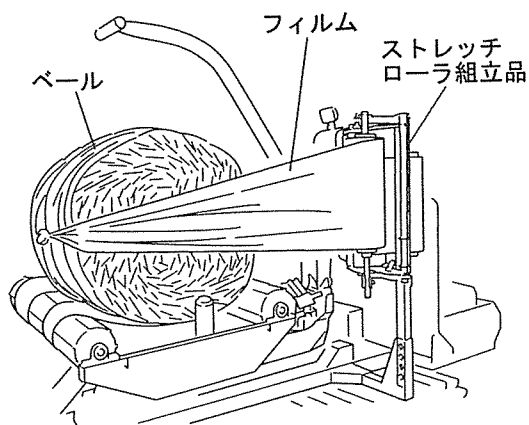
- (5) レバーをストレッチローラ組立品下部フレーム突起部に差し込み、時計方向に回しながらフックを解除します。  
フック解除後、反時計方向に回動し、フィルム1にストレッチローラを当てます。



- (6) レバーは、ストレッチフレーム組立品下部フレーム突起部から抜き、元の場所に差し込み保管してください。



- (7) フィルムを引き出し、ベール側トワインに結びつけます。

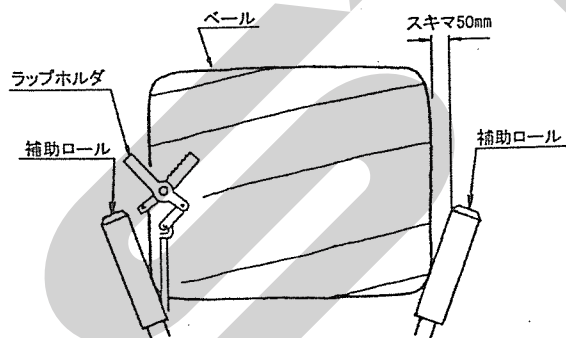


※ フィルムをベール側トワインに結びつける工程は、フィルムを新規に組み挿入したときのみ行います。

ラッピング作業時は、フィルム巻き付け荷降し時に、フィルムカット・ホールド部で自動的にフィルムを保持し、次のラッピング作業が行えます。

### 3. 補助ロールの調整

- (1) フィルム巻き付け時のベールのずれ、落下防止のため、ベール側面と補助ロール間に50mmのスキマになるよう調整してください。
- (2) ラップホルダ側の補助ロールは、ターンテーブルが適正位置に停止している状態で、フィルムとラップホルダ中心が合うよう補助ロールの位置を調整してください。

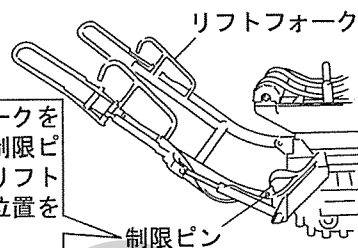


### 4. リフトフォーク上昇制限の調整

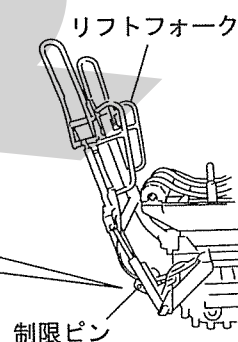
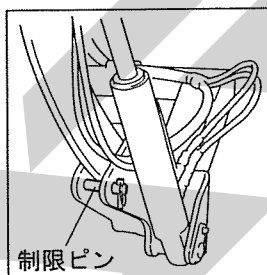
移動・格納時のリフトフォーク下降制限ピンを本機より抜き、リフトフォークを下方に下げ再度ピンを差し込み、リフトフォークの上昇範囲を制限してください。

作業時

※リフトフォークを下降させ再度制限ピンを差し込みリフトフォーク上昇位置を制限する。



移動・格納時



#### 取扱い上の注意

- 制限ピンを差し込まないで作業すると、リフトフォークの上昇位置が定まらず、ターンテーブル回転時やターンテーブルダンプ時リフトフォークと接触し、機体の破損となります。必ず、制限ピンを差し込み、リフトフォークの上昇範囲を制限してください。

### 3 作業要領

本作業機は、乗用クローラ型の自走式で移動が容易にでき、ほ場においても畜舎付近でも作業が行えます。

#### ▲ 危険

- 運転中又は回転中、ターンテーブルなどに接触すると、ケガをすることがあります。周囲に人を近づけないでください。
- ベールを積み降ろしする時、リフトアームやターンテーブルに挟まれ、ケガをすることがあります。周囲に人を近づけないでください。

## ▲ 警告

- いびつなベールをラッピングするとベールが振り落とされ、ケガをする事があります。標準回転数以下で運転してください。
- 傾斜地で荷降ろしするとベールが転がり、巻き込まれてケガをする事があります。荷降ろしは、平坦な場所で行ってください。
- 作業中、作業機部にベールを積載し、あるいは作業機部を上昇（リフト）して畦越えをしないでください。機械が転倒し、ケガをすることがあります。
- 作業機指定の回転速度を超えて作業すると、機械の破損により、ケガをする事があります。指定回転速度を守ってください。
- 作業機の上に人を乗せると、思わぬ事故をまねく事があります。作業の上には、人を乗せないでください。
- 傾斜地で速度を出しすぎると、暴走事故をまねく事があります。低速で作業してください。下り作業をする時、坂の途中で変速すると、暴走する原因となります。坂の前で低速に変速して、ゆっくりとおろしてください。
- わき見運転をすると、周囲の障害物の回避や、周囲の人への危険回避などができず、思わぬ事故を起こす事があります。前方や周囲へ、十分に注意を払いながら運転してください。
- 走行中および作業中、転倒するおそれがあります。路肩付近や軟弱地では、十分注意して使用してください。傾斜地での作業は行わないでください。転倒あるいは横転し、ケガをする事があります。
- 手放し運転すると、思わぬ方向へ暴走し、事故を起こす事があります。しっかりとサイドクラッチレバーを握って運転してください。
- ハウス内などの室内作業をする時、排気ガスにより中毒になる事があります。窓、戸などを開け、十分に換気をしてください。

## ▲ 注意

- 運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。カバーを開けないでください。
- フィルム巻き付け作業中、フィルムやストレッチローラに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。

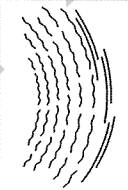
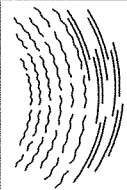
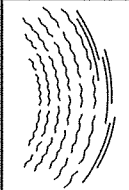
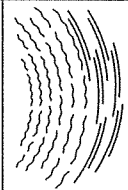
作業中はさわらないでください。

- ターンテーブルが上昇すると、ラップホルダが閉じて、ケガをする事があります。上昇させる時は、手を入れないでください。
- フィルム巻き付け作業中、フィルムやストレッチローラに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。作業中はさわらないでください。
- 機械の調整や、付着物の除去などを行う時、走行クラッチおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。走行クラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

### 1. フィルムの巻数

フィルムの巻数は、状況に応じて加減してください。

ベールサイレージの長期保存や、より良質なサイレージを作るためには、4層巻き以上に巻き付けてください。

ベール径860mm～900mm		ベール径1000mm～1100mm	
1回巻(2層巻)	2回巻(4層巻)	1回巻(2層巻)	2回巻(4層巻)
4～5巻	8～10巻	5～6巻	10～12巻
			

### 2. 作業機部制御盤の操作方法

#### 取扱い上の注意

- 使用しない時は、必ずキースイッチを「切」にしてください。バッテリーあがりの原因となります。
- 各操作スイッチを同時に操作しないでください。
- 制御盤は、水濡れ厳禁です。高圧洗車機等で洗車するとき、水がかからない様注意してください。

運転席座上から、スイッチの操作により

- (1) 巻数の設定
- (2) ターンテーブル「正転・逆転」
- (3) ターンテーブル「自動起動」
- (4) ダンプ「上げ・下げ」
- (5) リフトアーム「開・閉」
- (6) リフトフォーク「上げ・下げ」
- (7) リトルアーム「開・閉」
- (8) リフター「上昇・下降」
- (9) 作業灯「ON・OFF」

の操作が行えます。

#### <操作方法>

エンジンキースイッチを「入」にしますと、作業部制御盤に電流が通電し、電磁バルブを制御できる状態となります。

長時間、キースイッチを「入」の状態にしておきますと、バッテリーあがりの原因となります。

#### (1) 巻数の設定

- ① 巻数設定ダイヤルを回し、フィルムの巻数を設定します。

#### (2) ターンテーブル「正転・逆転」

- ② ターンテーブル「正転・逆転」スイッチを「正転」側に倒すと、ターンテーブルが右回転（フィルムの巻付け方法に回転）し、「逆転」側に倒すと左回転します。

#### 取扱い上の注意

- ②ターンテーブル「正転・逆転」スイッチは手動でターンテーブルの正転・逆転を行います。
- ②ターンテーブル「正転・逆転」スイッチの操作時は、フィルムの巻数設定は動作しません。  
制御盤中央の⑩ターンテーブル正面ランプが点滅しますので確認しながら操作します。
- ターンテーブルの逆転は⇒⇐マーク合わせの微妙な位置合わせのみとし、連続逆回転は絶対に行わないでください。
- ナイフホルダが閉じている状態ではターンテーブルを逆回転させると、カムやリンクが破損します。
- ターンテーブルが完全に下降していないと、ダンプのセンサが働いて、ターンテーブルは回転しません。

#### (3) ターンテーブル「自動起動」

- ③ ターンテーブル「自動起動」スイッチを押すとターンテーブルが回転し、ラッピングが始まり設定巻数になると、ターンテーブルが自動停止します。

#### 取扱い上の注意

- ③ターンテーブル「自動起動」スイッチで、ターンテーブルを起動回転させた場合、設定巻数まで停止しません。  
途中で停止する時は、エンジンキースイッチを「切」又は、エンジン緊急停止スイッチを押してください。

#### (4) ダンプ「上げ・下げ」

- ④ ダンプ「上げ・下げ」スイッチを「上げ」側に倒すと、ターンテーブルが上昇し、「下げ」側に倒すと下降します。

#### 取扱い上の注意

- ④ダンプ「上げ・下げ」スイッチは⇒⇐マークが合っている状態でのみ操作してください。  
⇒⇐マークが合っていないと、ターンテーブルの廻り防止のロックピンが作動せず、ベールの左右の重量差により、ターンテーブルが廻り込み、フィルムのカットおよび保持ができなくなります。  
又、ナイフホルダの解除リンクが破損します。

#### (5) リフトアーム「開・閉」

- ⑤ リフトアーム「開・閉」スイッチを「開」側に倒すと、リフトアームが開き、「閉」側に倒すと閉じます。
- (6) リフトフォーク「上げ・下げ」
  - ⑥ リフトフォーク「上げ・下げ」スイッチを「上げ」側に倒すと、リフトフォークが上昇（3-2-4 リフトフォーク上昇制限の調整位置まで上昇）し、「下げ」側に倒すと下降します。

#### 取扱い上の注意

- 制限ピンを差し込まないで作業すると、リフトフォークの上昇位置が定まらず、ターンテーブル回転時やターンテーブルダンプ時リフトフォークと接触し、機体の破損となります。  
必ず、制限ピンを差し込み、リフトフォークの上昇範囲を制限してください。

#### (7) リトルアーム「開・閉」

- ⑦ リトルアーム「開・閉」スイッチを「開」側に倒すと、リトルアームが開き、「閉」側に倒すと閉じます。

(8) リフター「上昇・下降」

- ⑧ リフター「上昇・下降」スイッチを「上昇」側に倒すと作業機部昇降リフターが上昇し、「下降」側に倒すと、下降します。

取扱い上の注意

- 昇降リフターは、完全に下降していないと、リフターセンサが働いて、ターンテーブルは回転しません。

(9) 作業灯「ON・OFF」

- ⑨ 作業灯「ON・OFF」スイッチを「ON」側に倒すと作業灯が点灯し、「OFF」側に倒すと消灯します。

(10) ターンテーブル正面ランプ

- ⑩ ターンテーブル正面ランプは、ターンテーブル1回転に1回、ランプが点灯します。

又、ターンテーブルが正面に停止（ターンテーブルの➡➠マークが合っている状態）した時にランプが点灯します。

(11) ヒューズ「本体・作業灯」

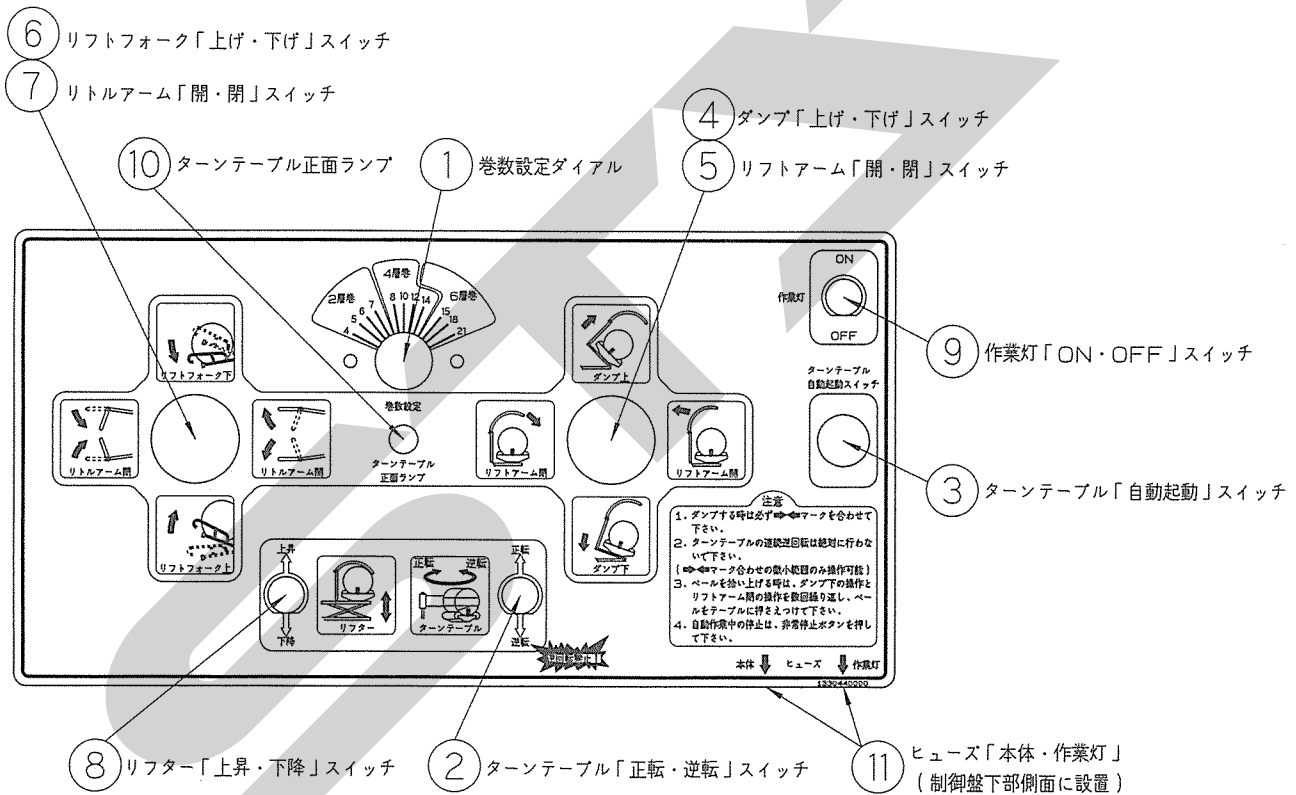
- ⑪ ヒューズ「本体・作業灯」を制御盤下部側面に設置してあります。

本体側のヒューズが作動しますとターンテーブル正面ランプが消灯し、各部の操作が不可能となります。

ヒューズ作動の原因を解消し、ヒューズボタンを押し込んでください。

又、作業灯側のヒューズが作動しますと作業灯が点灯しません。

作業灯の電球切れ又は、ヒューズ作動の原因を解消し、ヒューズボタンを押し込んでください。



### 3. 作業回転速度

ターンテーブルの標準回転速度は、20rpm以下です。

エンジンスロットレバーが高回転位置にてターンテーブルが標準回転速度近くで回ります。

### 4. 作業

#### 取扱い上の注意

- 本機のベール積込み最大重量は400kgです。400kg以上のベールを積込まないでください。機体の破損ならびに転倒の危険があります。

#### (1) 作業手順（ベール直拾いの場合）

- ① ストレッチフレームのフィルムホルダー（シャフト）についてフィルムを装着する。
- ② ラッピングするベール径を確認し、フィルムの巻数を設定する。
- ③ エンジンを始動し、各部の動作を確認する。
- ④ リフトフォークを下げ、リトルアームを開きラッピングするベールに接近する。
- ⑤ リフトアームを開き、ターンテーブルを上昇させる。
- ⑥ リトルアームを閉じ、リフトフォークを上げベールを持ち上げる。
- ⑦ リフトアームを閉じベールを保持し、ターンテーブルを下降させる。
- ⑧ リフトフォークを下げる。
- ⑨ リフトアームを開き、ターンテーブルを回転させラッピングする。
- ⑩ ラッピング終了後、リフトアームを閉じベールを保持し、ターンテーブルを上昇させる。
- ⑪ ターンテーブルの上昇後、リフトアームを開きベールを降す。
- ⑫ ターンテーブルを少し下降させ、フィルムカット・ホールド部に保持されているフィルムの張りをゆるめ、次のラッピングするベールに走行し接近する。

以下、順次前述⑥～⑫の繰返しにて連続作業を行う。

- ⑬ 作業終了後は、ターンテーブルを下降し、リフトアームを閉じる。
- ⑭ リフトフォーク上昇制限ピンを抜き、リフトフォークを運搬・格納状態まで上昇させ、再度制限ピンを差し込む。
- ⑮ 屋内保管場所まで移動保管する。

#### (2) 作業手順（コンビネーションベアラからのベール放出受取りの場合）

- ① } 前述(1)作業手順（ベール直拾いの場合）
- ② } と同様作業
- ③ }
- ④ リフトアームを開く。
- ⑤ リフトフォークを下げ、リトルアームを閉じコンビネーションベアラ後方に接近し、放出ベールを受取る。
- ⑥ リフトフォークを上げ、ベールを持ち上げる。
- ⑦ ターンテーブルを上昇させる。
- ⑧ リフトアームを閉じベールを保持し、ターンテーブルを下降させる。
- ⑨ リトルアームを開き、リフトフォークを下げる。
- ⑩ リフトアームを開き、ターンテーブルを回転させラッピングする。
- ⑪ ラッピング終了後、リフトアームを閉じベールを保持し、ターンテーブルを上昇させる。
- ⑫ ターンテーブルの上昇後、リフトアームを開きベールを降す。
- ⑬ ターンテーブルを下降させ、次のベール受取り場所に移動する。

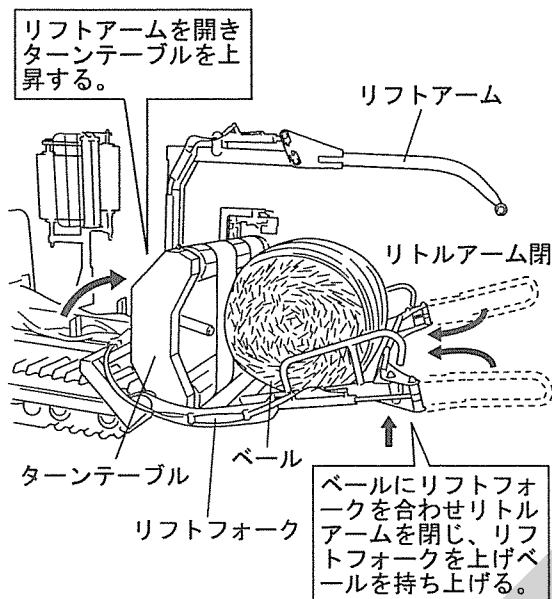
以下、順次、前述⑤～⑬の繰返しにて連続作業を行う。

- ⑭ 作業終了後は、前述(1)作業手順（ベール直拾いの場合）の⑬～⑮と同様作業。

### 3. 作業方法

#### (1) 積み込み（ベール直拾いの場合）

- ① リフトフォークを「下げ」、リトルアームを「開き」、機体を前進させてリフトフォークにベールを合わせます。
- ② リフトアームを「開き」、ターンテーブルを「上昇」します。
- ③ リトルアームを「閉じ」、リフトフォークを「上げ」ベールを持ち上げます。

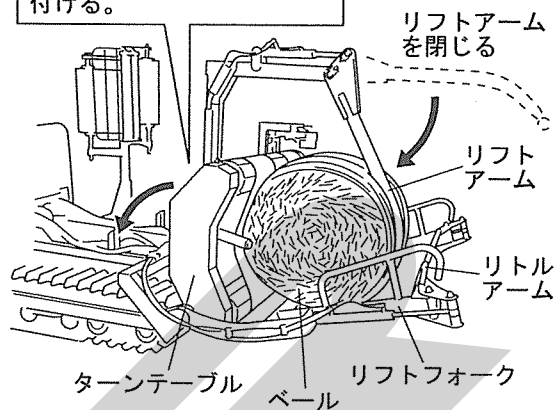


#### 取扱い上の注意

- リフトフォークは、制限ピン（3-2-4 リフトフォーク上昇制限の調整位置）まで確実に上昇してください。
- リフトフォークを上昇し、ベールを持ち上げないと、リトルアームでベールを保持することができません。必ずリフトフォークでベールを持ち上げてください。
- 制限ピンは、必ず差し込んで作業してください。  
リフトフォークの上昇位置が定まらず、ターンテーブルダンプ時やターンテーブル回転時にリフトフォークと接触し、機体の破損となります。

- ④ リフトアームを「閉じ」ベールを保持し、ターンテーブルを下降します。

ターンテーブルを下降させる  
※リフトアーム「閉」とダンプ「下」の操作を数回繰り返して、ベールをターンテーブル側に移動させ押さえ付ける。

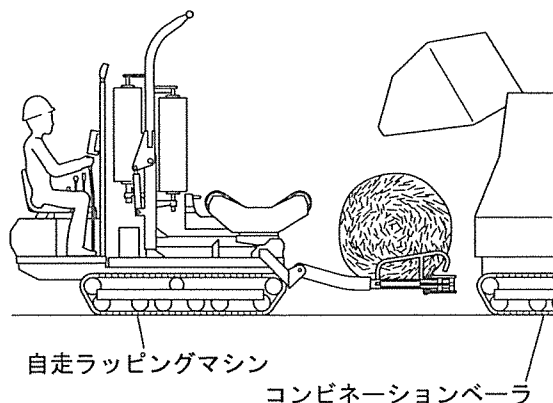


#### 取扱い上の注意

- リフトアームを閉じベールを保持して、ベールを拾い上げる時は、ダンプ「下」の操作とリフトアーム「閉」の操作を数回繰り返して、ベールをターンテーブル側に移動させ押さえつけてください。  
ベールの移動・押さえつけが悪いと、ベール拾い上げ時、リフトアーム先端とリトルアームとが接触し拾い上げができません。

#### (2) 積み込み（コンビネーションベラからのベール放出受取りの場合）

- ① リフトフォークを「下げ」、リトルアームを「閉じ」、機体をコンビネーションベラ後方に前進させ、ベール放出部にリフトフォークを合わせます。



#### 取扱い上の注意

- コンビネーションベラ後方に接近する場合は、作業者お互いに合図しながら接近してください。

- ② コンビネーションペーラから放出されたベールを受取り後、前述(1)積み込み（ベール直拾いの場合）の②～④の順に操作を行います。

(3) フィルム巻付け（ラッピング）

- ① 完全にターンテーブルが下降した後、リフトアームを「開き」ます。
- ② フィルムを引き出し、ベールに巻付いているトワインに通し縛ります。  
※フィルムを新規に組込み挿入したときのみ行います。  
ラッピング作業時は、ベール荷降し時、自動的にフィルムを保持し、次のラッピング作業が行えます。
- ③ ターンテーブル「自動起動」スイッチを押し、ターンテーブルを回転させます。

取扱い上の注意

- ターンテーブルが急激に回転始動するとフィルムがカット・ホールド部から外れたり切れたりします。  
巻付け開始、1回転～2回転目は、低速で回るよう、エンジン回転を下げてください。

- ④ 設定巻数になると、ターンテーブルが正面で停止します。

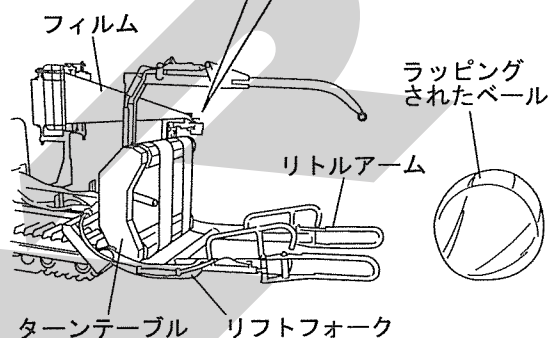
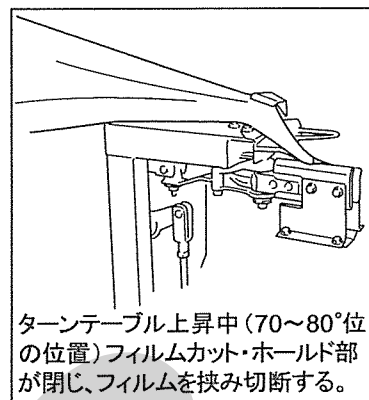
(4) ベール降し

- ① ラッピング終了後、リフトアームを「閉じ」ベールを保持し、ターンテーブルを上昇させます。  
この時、リトルフォークが下がり、リトルアームが開いていることを確認してください。
- ② ターンテーブル上昇中、ターンテーブルが70～80°位の位置でフィルムカット・ホールド部が閉じ、フィルムを挟み切断します。

取扱い上の注意

- リフトアームでベールを保持しないでベールを放出した場合、フィルムカット・ホールド部でフィルムを挟むことができません。必ず、リフトアームでベールを保持してください。

- ③ ターンテーブルが完全に上昇した後、リフトアームを「開き」、ベールを降します。



- (5) トラックなどの荷台にベールを降す場合、荷台高さ1.5m程度までのトラック荷台にベールを降すことができます。

▲ 危険

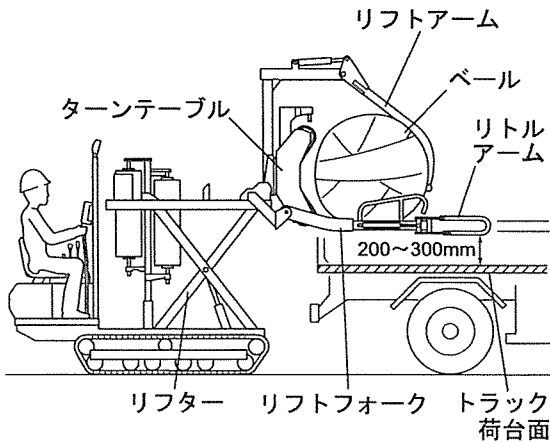
- トラック荷台へのベール積み込み時は、平坦な場所で行ってください。機械のバランスを崩し、転倒などの事故を引き起こします。
- 移動する時は、作業機部を上昇（リフト）して走行しないでください。必ず、下降させた状態で走行してください。機械のバランスを崩し、転倒などの事故を引き起こしたり、機械の破損の原因となります。
- 傾斜地など機体が傾向している状態で作業機部を上昇（リフト）しないでください。機械のバランスを崩し、転倒などの事故を引き起こします。

- ① ベールを積み込みするトラックのアオリを切っておきます。
- ② リトルアームを「開き」リフトフォークを「下げ」トラック荷台まで接近します。
- ③ ベールを搭載した作業機部を「上昇」させ、リトルフォークがトラック荷台上に位置するまで本機を前進させます。

### 取扱い上の注意

- トラック荷台面とリトルフォークとの間隙を200～300mmとなるよう作業機部を上昇させてください。

- ④ リフトアームを「閉じ」ベールを保持し、ターンテーブルを上昇させます。
- ⑤ ターンテーブルが完全に上昇した後、リフトアームを「開き」ベールを降します。



- ⑥ ベール降し後、リトルアーム先端がトラック荷台から離れ、作業機部が下降できる位置まで本機を後退します。

### 取扱い上の注意

- 必ず、作業機部を下降させてから走行移動してください。  
機械バランスを崩し、転倒などの事故を引き起こします。



## 5 作業がおわったら

長持ちさせるために、手入れは必ずしましょう。

### ▲ 注意

- 本機の調整や、付着物の除去などを行う時、走行クラッチおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に本機が動きだし、思わぬ事故を起こす事があります。  
走行クラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。
- マフラーに触れるとヤケドをする事があります。  
マフラーには触れないでください。
- 高圧洗車機等で本機を洗車すると、バッテリー、ブザー、エンジン、作業機部操作盤等に水が入り、破損の原因となります。  
洗車等、水がかからない様に注意してください。
- 作業後の点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをする事があります。  
作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

### 1 作業後の手入れ

1. 機械に付着している土砂・牧草等を取り除いてください。
2. ボルト、ナット、ピン類のゆるみ、脱落がないか。又、破損部品がないか確認してください。  
不具合が見つかった時は、ボルトの増締め、部品の交換をしてください。
3. 油圧パッケージのオイル量の確認および油圧モータ・油圧シリンダ・油圧ホース関係からの油もれの確認をしてください。  
不具合が見つかった時は、オイルの補給、ホース接続部の増締め・部品の交換をしてください。

4. 電装品関係の部品破損・コードの断線などがないか確認してください。

不具合が見つかった時は、部品の交換をしてください。

5. エンジンオイル・走行ミッションオイル・HSTオイルなど「2-3 給油箇所一覧表」・「6-2-2 走行ミッションオイル」・「6-2-3 HSTオイル」に基づき、油脂を補給してください。

### 2 長期格納するとき

1. 機械各部の清掃をしてください。
2. 「6-1 点検整備一覧表」に基づき、点検してください。  
又、破損した部品、消耗した部品は交換又は、補充してください。
3. 「2-3 給油箇所一覧表」に基づき、油脂を補給してください。  
回転・回動支点および摺動部には注油し、塗装されていない露出部にはグリースを塗布してください。
4. 塗装の損傷部を補修塗装するか、又は、油を塗布し、さびの発生を防いでください。
5. バッテリーは、本機から外し、日当の当たらない乾燥した場所に保管してください。
6. 格納は、風通しの良い屋内に保管してください。

## 6 点検と整備について

調子よく作業するために、定期的に行いましょう。

機械の整備不良による事故などを未然に防ぐために、「点検整備一覧表」に基づき、各部の点検整備を行い、機械を最良の状態に、安心して作業が行えるようにしてください。

摩耗、折損、消耗した時は交換、補充してください。

### ▲ 警告

- 作業機部を上昇（リフト）させての点検・調整中、不意に作業機部が下降しケガをする事があります。  
油圧シリンダに安全ストッパを掛け、確実にロックしてください。  
又、点検・調整中は作業機部が高所にあります。  
頭上に注意してください。
- 機械に異常が生じた時、そのまま放置すると、破損やケガをする事があります。  
取扱説明書に基づき行ってください。
- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、本機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。

こす事があります。

平坦で地盤のかたい所で行ってください。

- 走行クラッチおよびエンジンをとめず点検・整備すると、第三者の不注意により、不意に本機が動き出して思わぬ事故を起こす事があります。

走行クラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

- マフラーに触れるとヤケドをする事があります。

マフラーに触れないでください。

- 油圧の継手やホースに、ゆるみや損傷があると、飛び出る高圧オイルで、ケガをする事があります。

補修もしくは部品交換をしてください。

継手やホースを外す時は、油圧回路内の圧力を無くしてから行ってください。

- 不調処置・点検・整備のために外したカバー類を取り付けずに作業すると、回転部や可動部に巻き込まれ、ケガをする事があります。

元通りに取り付けてください。

### 1 点検整備一覧表

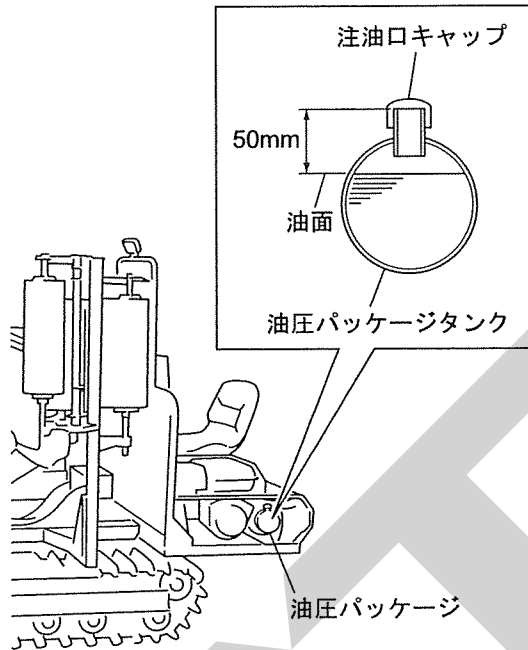
時間	点検項目	処置
新品使用前	・各部の給油	・「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油
	・エンジンオイル・燃料の点検	・「7 ページの初めて使用する前に」に基づき点検・給油
作業前 作業後	・機械の清掃	
	・各部の油もれ	・「7-1 不調処置一覧表」に基づき処置
	・ボルト・ナット・ピン類のゆるみ、脱落	・増し締め、部品補給
	・駆動系の異常音・異状振動	・「7-1 不調処置一覧表」に基づき処置
	・回転部・可動部の給油、注油、給脂	・「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油
	・カバー・チェーン破損	・部品交換
	・ターンテーブル旋回部（旋回ベアリング）トワインの巻き付き又は、牧草の巻き付き	・巻き付いたトワイン又は、牧草を除去 ・「7-1 不調処置一覧表」に基づき処置
	・チェーンの張り加減 ・フィルムの消耗	・調整 ・補充
シーズン終了後	・各部の清掃	
	・破損部	・補修・交換
	・走行用ミッションオイル	・交換
	・エンジン	・「エンジン取扱説明書」に基づき点検・整備
	・塗装損傷部	・塗装又は油塗布
	・回転支点・ピン等の磨耗	・部品交換

## 2 各部の点検・調整

### 1. 油圧パッケージオイル

油圧パッケージタンク内のオイル量を点検してください。

- 本機の作業機部は、油圧パッケージの油圧にて作動しています。
- 作業機部の各部シリンダーを最縮長にて油圧パッケージタンク内の油量を確認してください。油面が注油口から50mm下がった位置が最適量です。

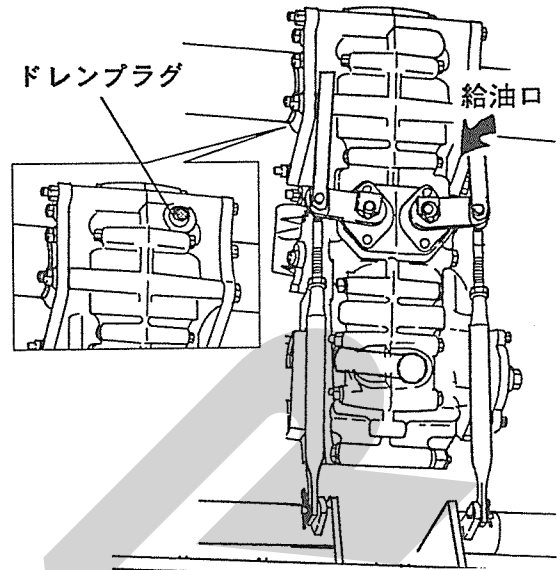


#### 取扱い上の注意

- エンジンが停止し油圧パッケージが回動していない状態で、作業機部を操作すると、各シリンダー内の油が油圧パッケージ内に押し戻され、油圧パッケージタンク注油栓又は、油圧パッケージタンク接続部から吹き出したり、油モレの発生となります。作業機部を操作する場合は、必ずエンジンを始動し油圧パッケージが回動している状態で行ってください。
- 油圧パッケージタンク内にオイルを入れすぎますと、戻り側オイルがタンクからあふれ、油圧パッケージタンク注油栓から吹き出します。オイルは入れすぎないように注意願います。

### 2. 走行ミッションオイル

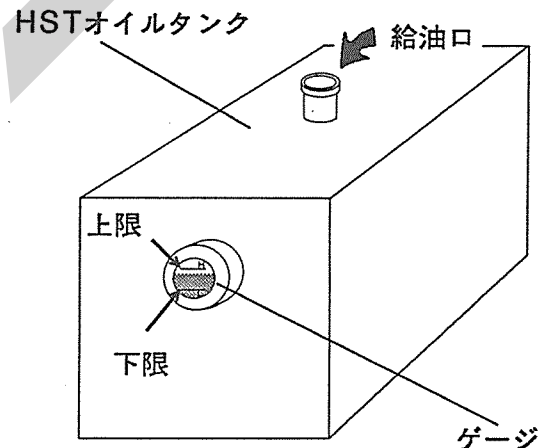
走行ミッションオイルは、1回目50時間・2回目以降は100時間毎に交換してください。



### 3. HSTオイル

HSTオイルは、HSTオイルタンク側面のゲージの上限(H)と下限(L)の範囲内にあることを点検します。

もし不足の場合は、補充してください。



### 4. クローラの張り調整

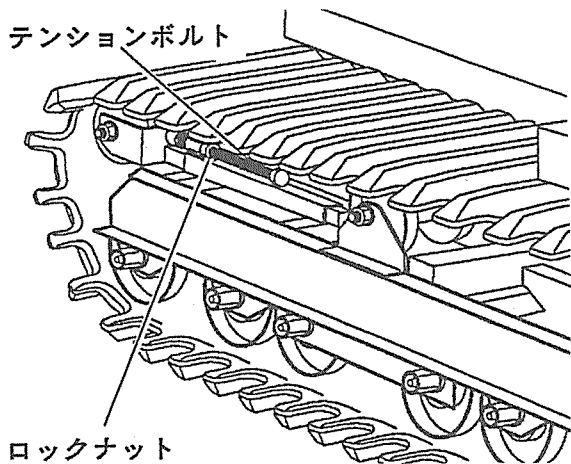
#### ▲ 注意

- クローラの張り調節後は、必ずロックナットを締め付けてください。守らないと、クローラが外れたりして、思わぬ事故の原因となります。

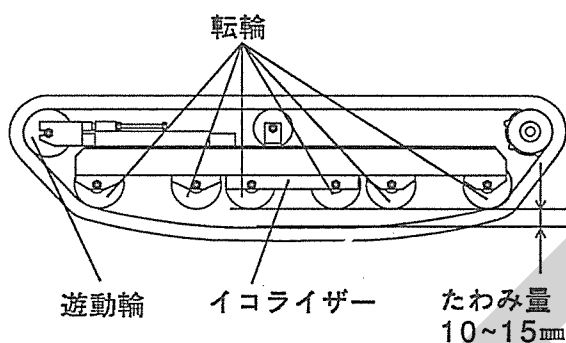
(1) クローラが緩んだときは、ジャッキ等で機体を持ち上げてから安全ブロック等で降下しないように固定します。

- (2) ロックナットを緩め、テンションボルトを締込んでクローラを張ります。このときのたわみ量が10~15mm程度にしてください。

テンションボルト



ロックナット



遊動輪

イコライザー

たわみ量  
10~15mm

- (3) 調節後は、ロックナットを確実に締め付けてください。

#### 取扱い上の注意

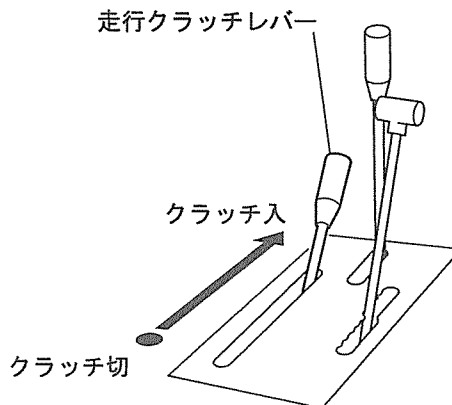
クローラの張りが弱いと、歯飛び、脱輪の原因となり、強すぎるとクローラの切断、本機の損傷の原因となります。

グリスアップしすぎますと、遊動輪が回転しなくなりますので入れすぎに注意してください。

#### 5. 走行クラッチレバーの調整

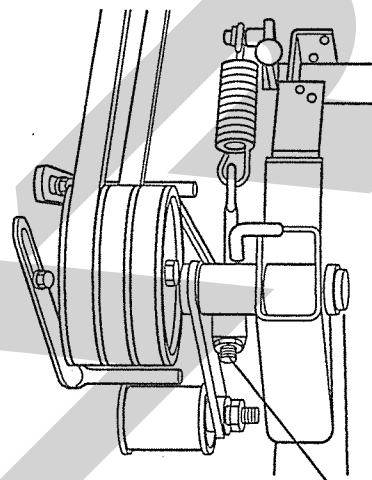
走行クラッチレバーが「入」位置のときはベルトがスリップしていないか確認してください。もし、ベルトがスリップしている場合は、走行クラッチジャストネジを締込んでください。調整については販売店にご依頼ください。

走行クラッチレバー



クラッチ入

クラッチ切



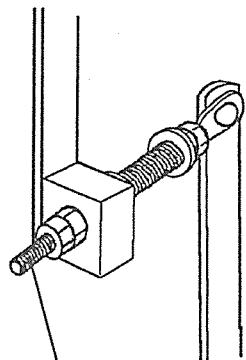
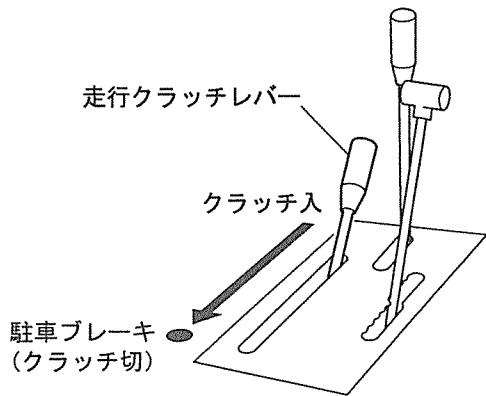
走行クラッチアジャストネジ

#### 6. 駐車ブレーキ

##### 警告

- ブレーキの効きが悪かったり、ブレーキが効いたままにならないように点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

走行クラッチレバーを「切」位置・「駐車ブレーキ」位置にしたときのブレーキの効きを確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、駐車ブレーキアジャストネジを締込んでください。調整については販売店にご依頼ください。



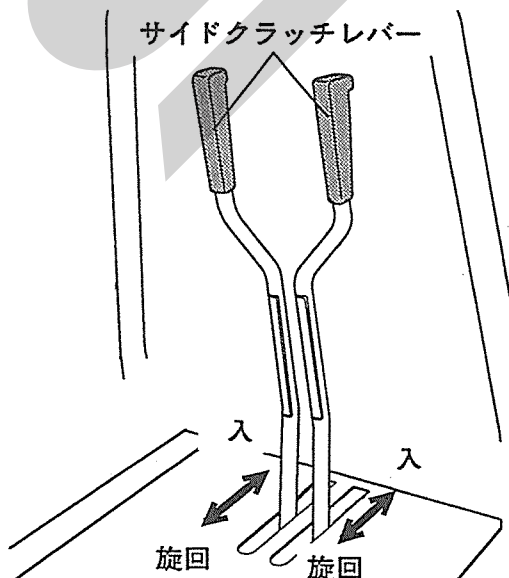
駐車ブレーキアジャストネジ

## 7. サイドクラッチレバーの調整

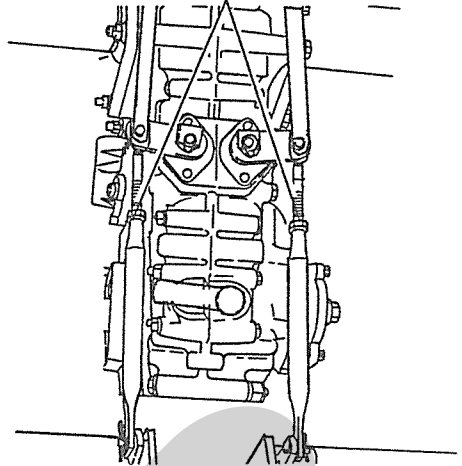
### 警告

- 確実にサイドクラッチレバーが「入」、「旋回」ができるか点検してください。思うように旋回できずに事故をおこすおそれがあります。

確実にサイドクラッチレバーが「入」・「旋回」ができるか、確認してください。もし、うまく旋回できないときはサイドクラッチレバーアジャストネジで調整します。調節については販売店にご依頼ください。



## サイドクラッチレバーアジャストネジ

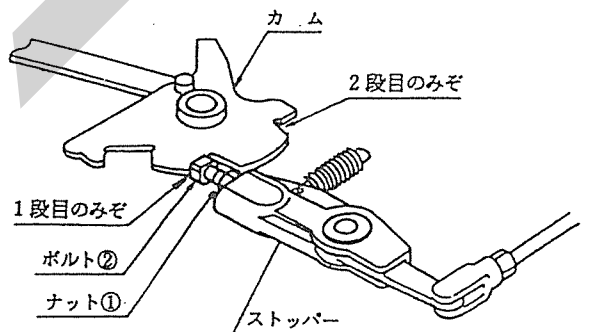


## 8. フィルムカット・ホールド関係の調整

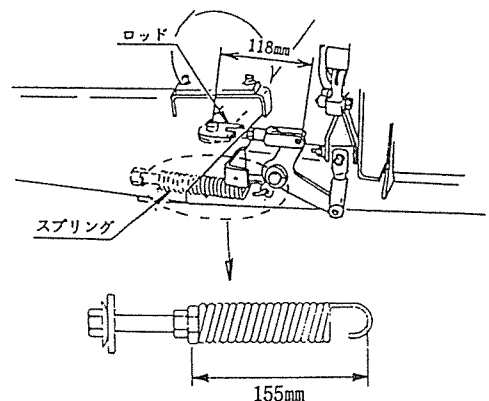
最良の状態にて調整してありますが、使用において、再度、調整の必要が生じたとき、次の要領で行ってください。

### (1) ラップホルダ関係の調整

- ① ターンテーブルを時計方向に手で廻し、カムを作動させ、ストッパーがカムのみぞ部1段目・2段目に容易に入るようストップ先端のボルト②で調整します。調整後ナット①は完全に締め込み固定してください。



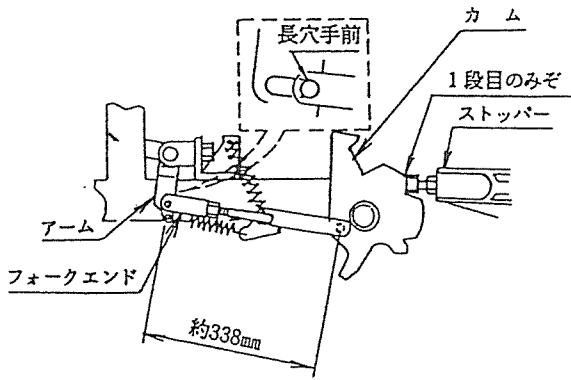
- ② 各ロッドの長さを調整、それぞれアームに接続後、スプリングの張りを調整します。



### 取扱い上の注意

スプリングは、張りすぎないように注意してください。張りすぎると、カムの作動部の摩耗がいちじるしく進んだり、ラップホルダ関係の部品折損の原因ともなります。

- ③ ストッパー先端がカムのみぞ部1段目に入った状態で、ロッド先端のフォークエンドピンがアーム長穴（長穴手前）部に挿入できるようにフォークエンド位置を調整し、ピンを挿入固定します。



- ④ 前述①～③の調整後、再度ターンテーブルを手で回転させ、カムのみぞ1段目・2段目にストッパーが入り、又、ターンテーブル2回転目にラップホルダが開くことを確認してください。

### ▲ 注意

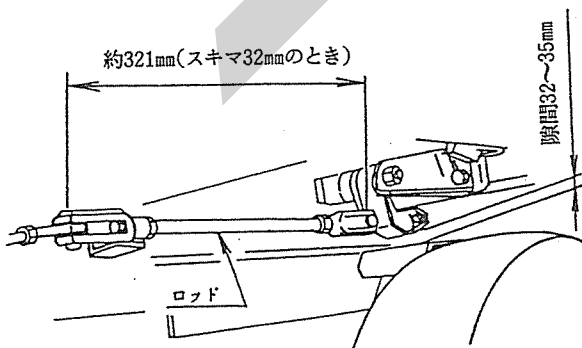
- ターンテーブルが上昇するとラップホルダが閉じて、ケガをすることがあります。上昇させる時は手を入れないでください。
- 調整時不意にラップホルダが閉じてケガをすることがあります。調整する時は手を入れないでください。

### 取扱い上の注意

作業しない時および本機を保管する時は、ラップホルダを閉じた状態にしておいてください。

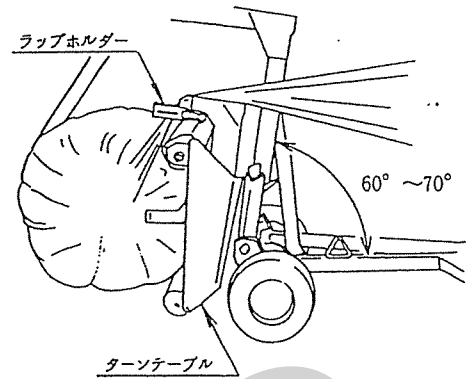
### (2) ラップホルダ解除装置の調整

- ① フレーム上面とアーム先端部とのスキマを32～35mmの範囲でロッド長さの調整を行います。

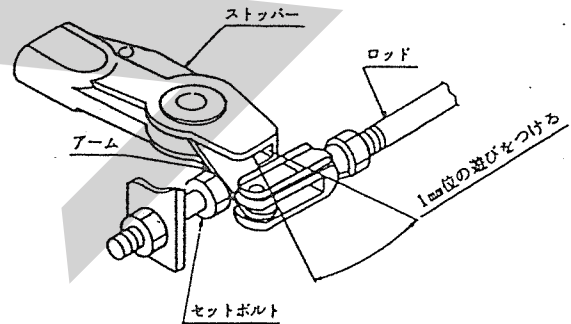


- ② 実際にターンテーブルを回転させ、ラップホルダを開きダンプを「上昇」させ、ラップホルダの閉じる位置を確認してください。

ラップホルダの閉じる位置はターンテーブル上昇角度約60～70度近くが最適です。



- ラップホルダが早く閉じる場合は、ロッドを伸ばし、セットボルトをゆるめ、ストッパーとアームの間に遊びをつけます。
- ラップホルダが遅く閉じる場合は、ストッパーとアームの遊びを1mm位としフレーム上面とアーム先端部のスキマで調整します。

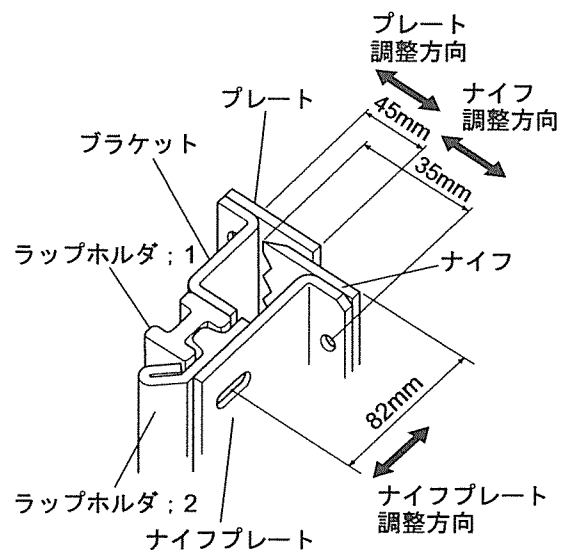


### 9. ラップホルダのナイフ位置の調整

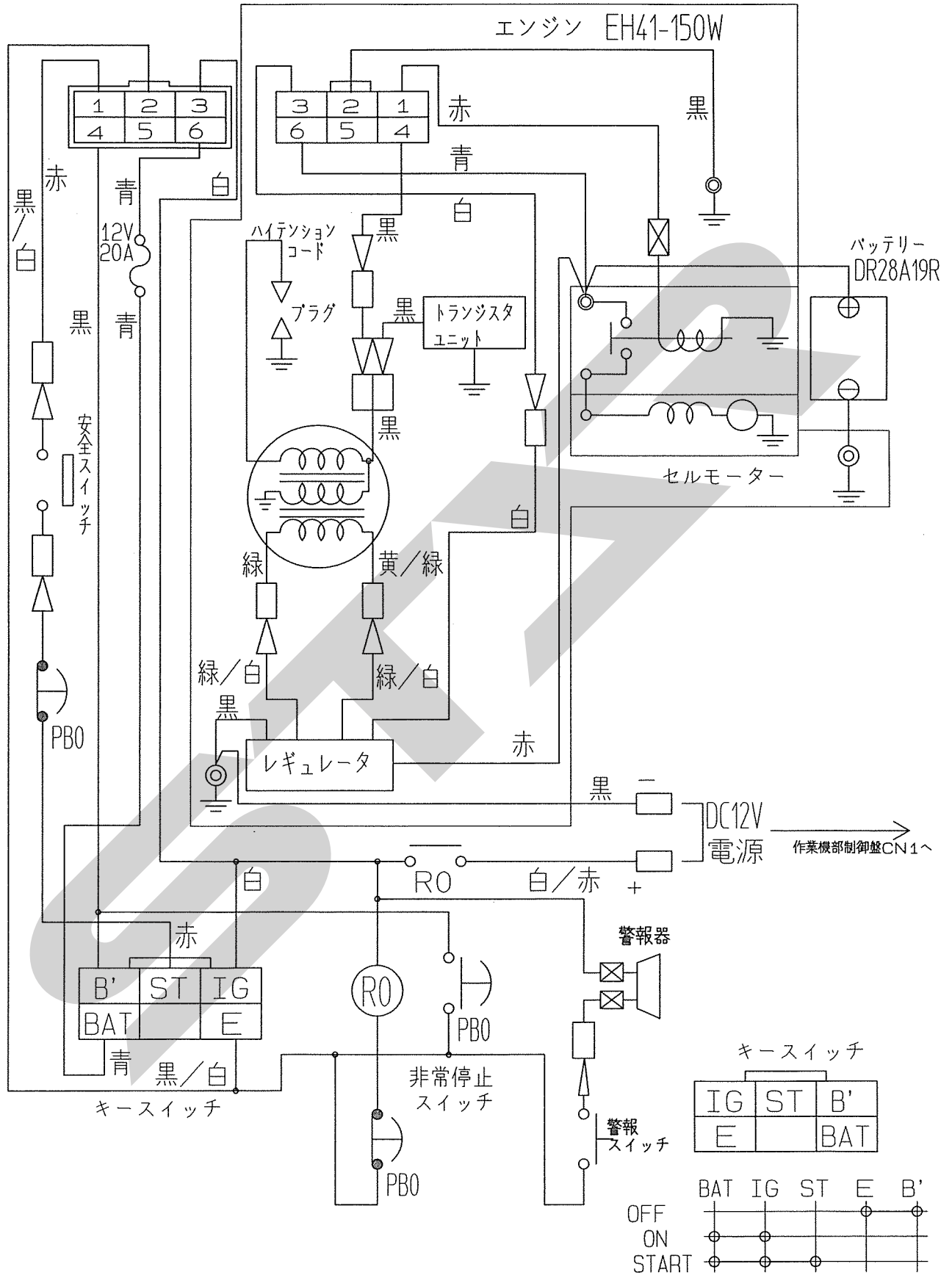
- (1) ナイフの位置は図示の位置にて調整してあります。

実際にフィルムをはさんで切れ具合、ならびに保持具合を確認し、調整してください。

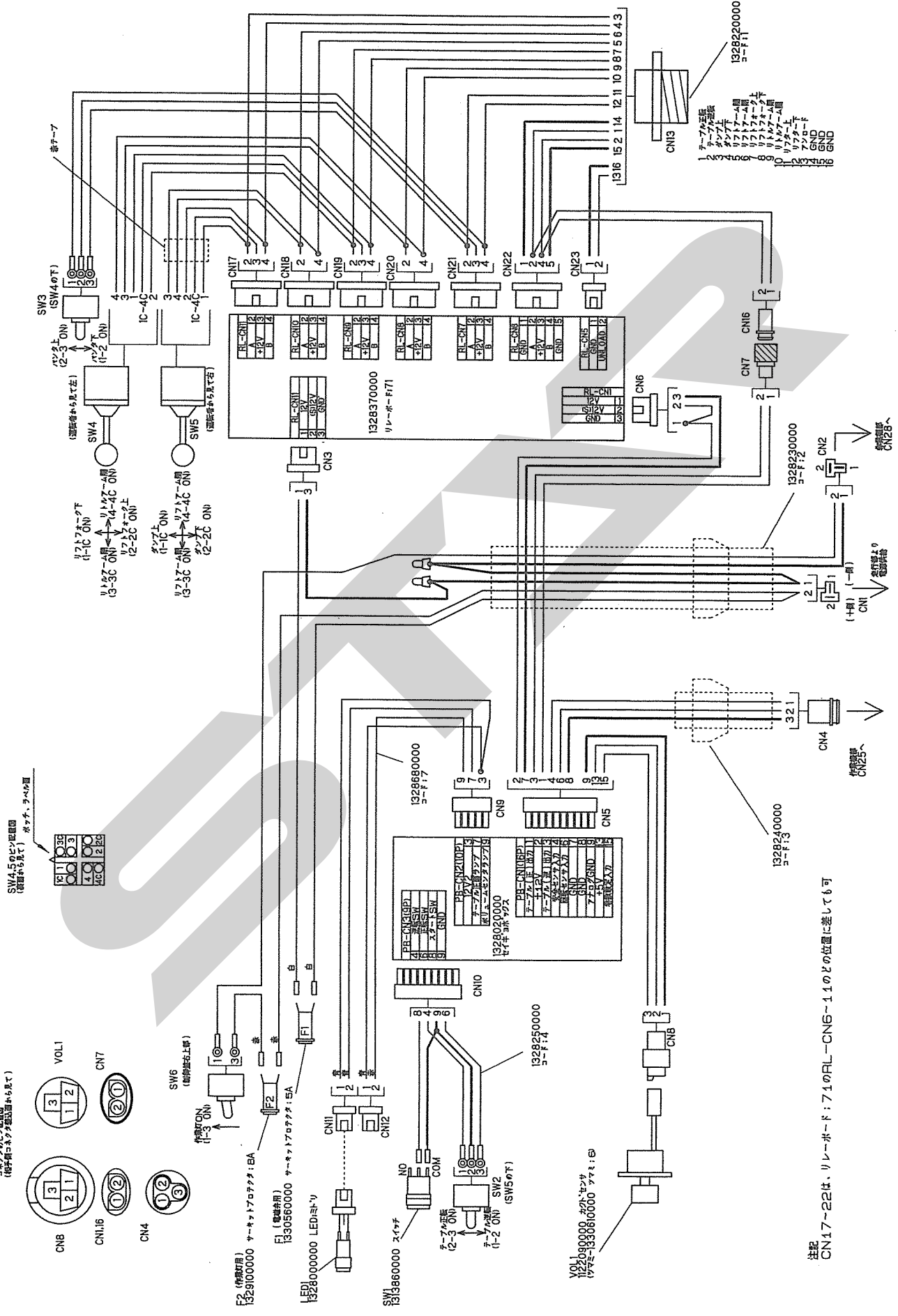
- (2) ナイフおよびナイフプレート・プレートの出し入れにより、フィルムの切断・保持具合を調整してください。



### 3 走行部配線図

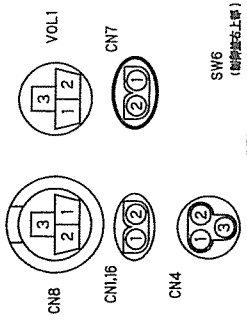


# 4 作業機部制御盤配線図

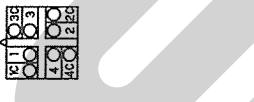


注記  
CN17~22は、リレーポート:71のRL-CN6-1.1のとの位置に差しても可

1. 作業機部の端子  
2. 電源部の端子  
(端子番号は端子図から見て)

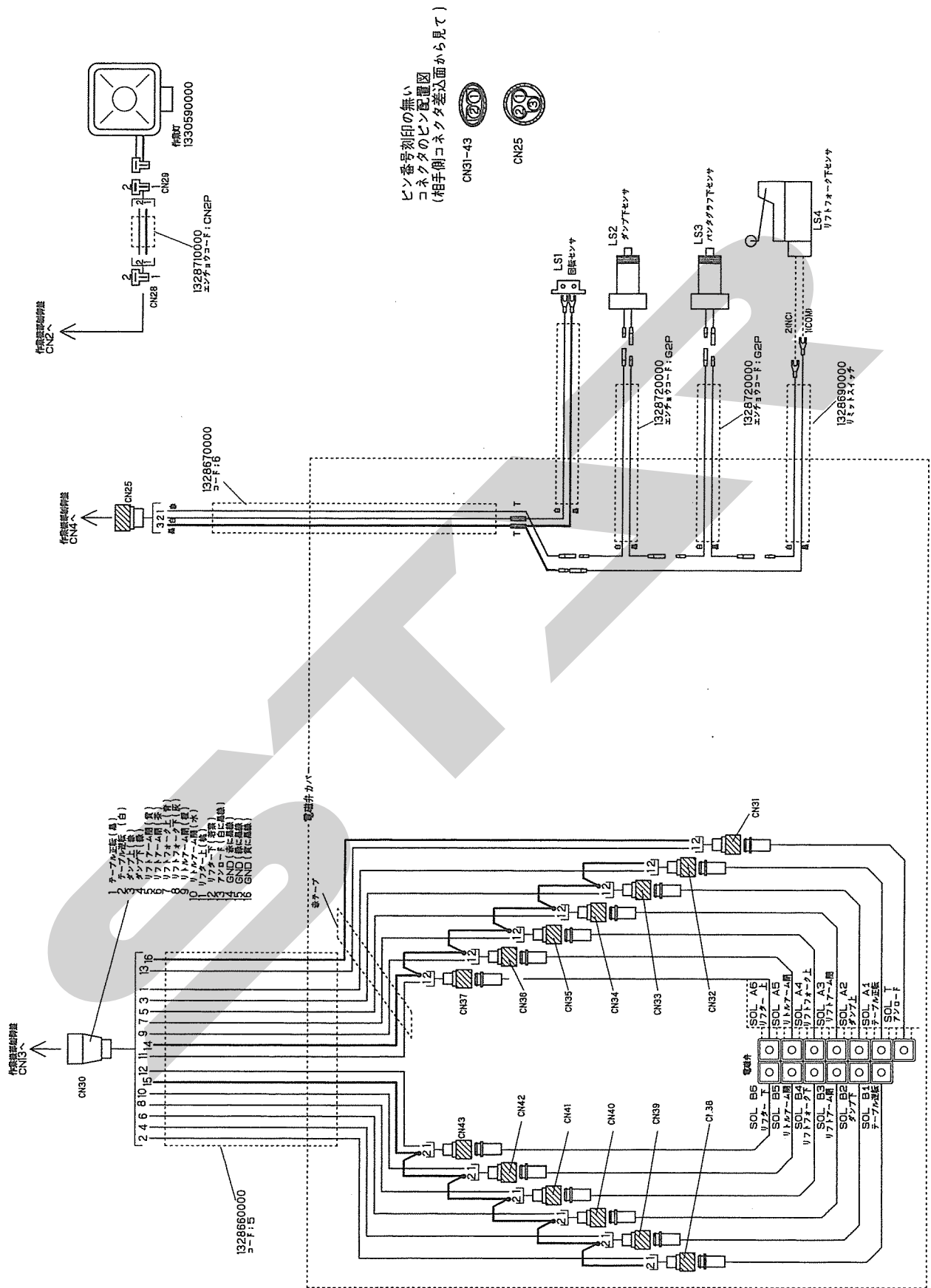


SW4,5のピン配線図  
(端子番号は端子図から見て)

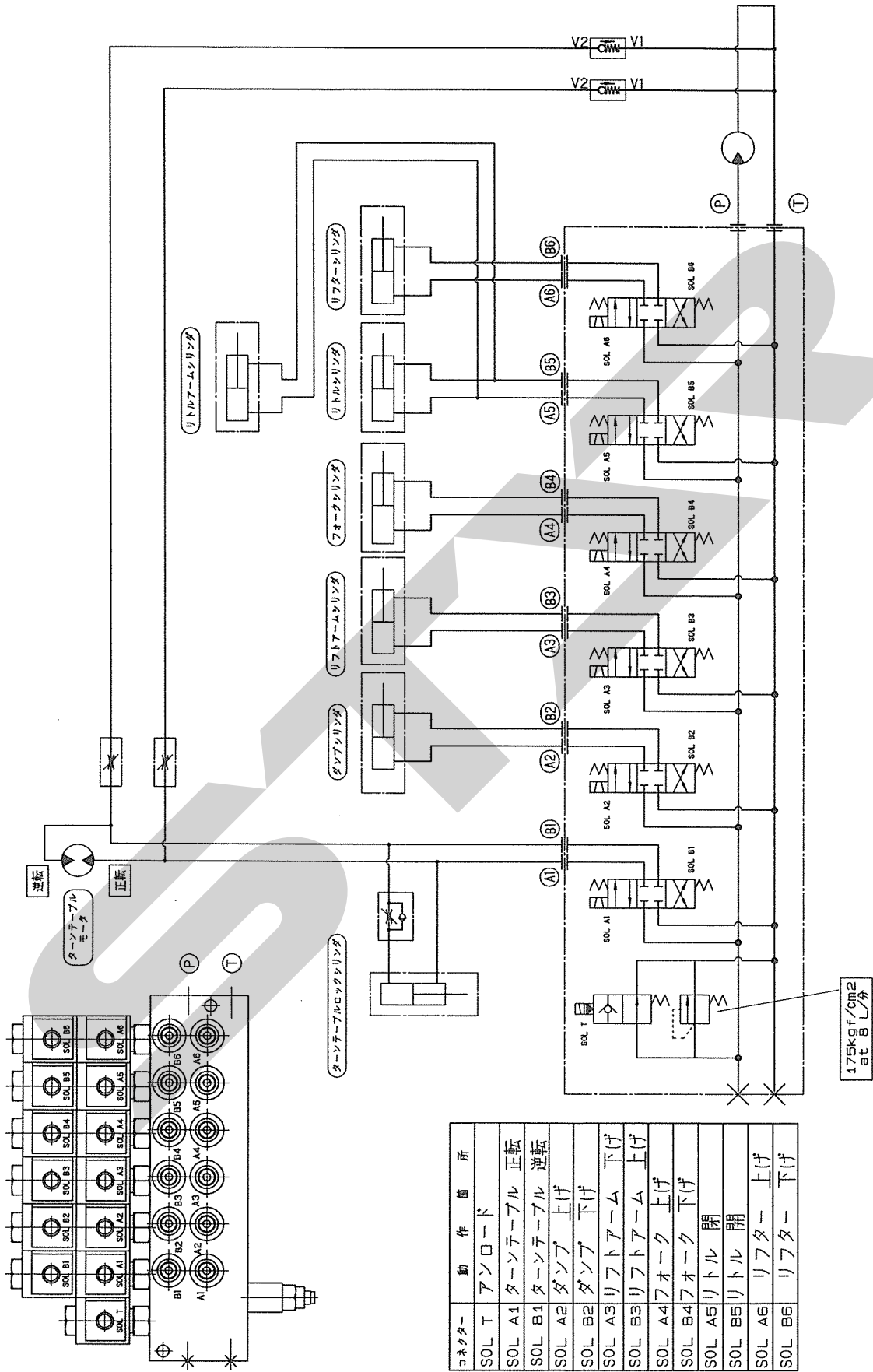




# 5 作業機部配線図



# 6 油圧配管図



コネクタ	動作箇所
SOL T	アンロード
SOL A1	ターンテーブル 正転
SOL B1	ターンテーブル 逆転
SOL A2	ダンブ 上げ
SOL B2	ダンブ 下げ
SOL A3	リフトアーム 下げ
SOL B3	リフトアーム 上げ
SOL A4	フォーク 上げ
SOL B4	フォーク 下げ
SOL A5	リトル 閉
SOL B5	リトル 閉
SOL A6	リフトアーム 上げ
SOL B6	リフトアーム 下げ

## 7 不調時の対応

万一機械の調子が悪い場合は、不調処置一覧表により処置をしてください。

### ▲ 警告

- 作業機部を上昇（リフト）させての点検・調整中、不意に作業機部が下降しケガをする事があります。  
油圧シリンダに安全ストッパーを掛け、確実にロックしてください。  
又、点検・調整中は作業機部が高所にあります。  
頭上に注意してください。

### ▲ 注意

- 機械に異常が生じた時、そのまま放置すると、破損やケガをする事があります。  
取扱説明書に基づき行ってください。
- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行くと、本機が不意に動き出して思わぬ事故を起こす事があります。  
平坦で地盤のかたい所で行ってください。

- 走行クラッチおよびエンジンをとめずに点検・整備すると、第三者の不注意により、不意に本機が動き出して思わぬ事故を起こす事があります。  
走行クラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。
- マフラーに触れるとヤケドをする事があります。  
マフラーに触れないでください。
- 油圧の継手やホースに、ゆるみや損傷があると、飛び出る高圧オイルで、ケガをする事があります。  
補修もしくは部品交換をしてください。  
継手やホースを外す時は、油圧回路内の圧力を無くしてから行ってください。
- 不調処置・点検・整備のために外したカバー類を取り付けずに作業すると、回転部や可動部に巻き込まれ、ケガをする事があります。  
元通りに取り付けてください。

### 1 不調処置一覧表

	症状	原因	処置
走行 エンジン 関係 部	● エンジンが 始動しない	● 燃料切れ	● 燃料を補給してください
		● エンジンの始動手順誤まり	● 「1-2-1 走行の仕方」およびエンジン取扱説明書に基づき始動
		● 燃料に水が混入	● エンジン取扱説明書に基づき点検・清掃
		● 点火プラグの不良	● エンジン取扱説明書に基づき、清掃・調整・交換
		● 走行クラッチレバーが「入」位置	● 「1-2-1 走行の仕方」に基づき走行クラッチレバーを「切」に位置する
	● エンジンの 定格出力が 出ない	● バッテリーの放電	● 「1-2-2 リコイルスタータでの始動要領」およびエンジン取扱説明書に基づき始動 ● バッテリーを点検し、補充電
		● バッテリー端子部のゆるみ、外れ又は、腐食	● エンジン取扱説明書に基づき、端子部の清掃・再締め付け
		● バッテリー液が足りない	● バッテリー液を補充し、充電
		● エアクリーナの目詰まり	● エンジン取扱説明書に基づきエアークリーナの清掃・点検を行う
		● エンジンオイルの減少又は、質の低下	● エンジン取扱説明書に基づき補充又は、交換を行う
	● チョークの戻りが悪い	● 点検・調整又は、スロットルワイヤーの交換	
	● エンジンの圧縮不足	● エンジン取扱説明書に基づき確認処置する	

		症 状	原 因	処 置
走 行 部	走 行 関 係	・走行しない	・ベルトのスリップ ・ベルトの損傷・切断	・販売店で点検・整備を受けてください
		・足回りより音(キーキー音)がする	・遊動輪のグリース切れ	・「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油
		・旋回しない又は、戻りが悪い	・クローラの張りが適切でない	・「6-2-4 クローラの張り調整」に基づき調整
			・クローラの損傷	・販売店で点検・整備を受けてください
		・ブレーキのききが甘い	・サイドクラッチロッドの調整が適切でない ・ブレーキロッドの調整が適切でない ・ブレーキシューの摩耗	・販売店で点検・整備を受けてください
・本機が停止しない	・H S T走行ロッドの調整が適切でない	・販売店で点検・整備を受けてください		
作 業 部	回 転 関 係	・異常音・異常振動	・傾斜地で機体が傾いている	・平坦なほ場まで移動し、作業する
			・ベール形状が悪く機体がゆれる	・回転速度をさげる ・密度の高い、形状の良いベールを作る ・回転速度をさげる
			・チェーンがゆるみスプロケットがとぶ	・チェーン張り調整
			・ベール形状が悪くベールが回転せずスプロケットがとぶ	・密度の高い、形状の良いベールを作る
		・ベールが回転しない	・ベール形状が悪いか密度は低く、ロールの間にベールが入り込む	・密度の高い、形状の良いベールを作る
		・ベールが落下する	・ベールの形状が悪いか密度が低い	・密度の高い、形状の良いベールを作る ・回転速度をさげる
機 関 部	油 圧 関 係	・作動しない	・パワーパッケージのオイル不足	・「2-3 給油箇所一覧表」・「6-2-1 油圧パッケージオイル」に基づき給油
			・油圧コントロールバルブのゴミのつまり	・油圧コントロールバルブを分解・清掃し、ゴミを除去する ・油圧オイルの交換
		・油もれ	・油圧ホース金具のゆるみ	・増し締め
			・油圧コントロールバルブのシール部の摩耗	・部品の交換
			・油圧シリンダのシール部摩耗	・部品の交換
			・油圧シリンダのシール部にゴミ又は異物が進入	・部品の交換
・パワーパッケージオイル注油栓からオイル吹き出る(オイルの入れすぎ)	・「2-3 給油箇所一覧表」・「6-2-1 油圧パッケージオイル」に基づき処置			
	・油圧ホース破損	・油圧ホース交換		
電 装 部	電 装 関 係	・制御盤の作動不良	・コードの接続不良又は断線	・補修又は、部品の交換
			・センサー又はスイッチの不良 ・制御盤の故障	・補修又は、部品の交換 ・部品交換、又は、当社営業所又は、販売店に修理依頼
部	ス ト レ ッ チ ロ ー ラ 関 係	・フィルムの張り不足	・フィルムが延伸されない	・「4-2-2 フィルムの装着」に基づき調整
			・ベール中心とフィルム幅中心が一致していない	・「4-2-1 ストレッチ高さの調整」に基づき調整

		症 状	原 因	処 置
作 業 機 部	フ ィ ル ム カ ッ ト ・ ホ ー ル ド 関 係	・フィルムを保持しない	・ラップホルダが閉じた時にフィルムを挟まない ・雨や霧の中での作業中、フィルムやラップホルダ部が濡れてしまい抜ける	・「6-2-9 ラップホルダのナイフ位置調整」に基づき調整 ・雨や霧の場合は、ベール水分も多くなり良質なサイレージは難しいので作業を控える
		・フィルムが切れない	・ラップホルダが閉じた時フィルムが切れない	・「6-2-9 ラップホルダのナイフ位置調整」に基づき調整

原因や処置のしかたがわからない場合は、下記事項とともに購入先にご相談ください。

1. 製品名
2. 部品供給型式（型式）
3. 製造番号
4. 故障内容（できるだけ詳しく）

STARR



STARR

調 整

S-030416I

本 社	066-8555	千 歳 市 上 長 都 1 0 6 1 番 地 2 TEL0123-26-1123 FAX0123-26-2412
千 歳 営 業 所	066-8555	千 歳 市 上 長 都 1 0 6 1 番 地 2 TEL0123-22-5131 FAX0123-26-2035
旭 川 営 業 所	070-8004	旭 川 市 神 楽 4 条 9 丁 目 3 番 3 5 号 TEL0166-61-6131 FAX0166-62-8985
豊 富 営 業 所	098-4100	天 塩 郡 豊 富 町 字 上 サ ロ ベ ッ 1 1 9 1 番 地 TEL0162-82-1932 FAX0162-82-1696
帯 広 営 業 所	080-2462	帯 広 市 西 2 2 条 北 1 丁 目 1 2 番 地 TEL0155-37-3080 FAX0155-37-5187
北 見 営 業 所	090-0001	北 見 市 小 泉 3 0 2 TEL0157-24-3880 FAX0157-61-1344
中 標 津 営 業 所	086-1152	標 津 郡 中 標 津 町 北 町 2 丁 目 1 6 番 2 TEL01537-2-2624 FAX01537-3-2540
花 巻 営 業 所	025-0312	岩 手 県 花 巻 市 二 枚 橋 第 三 地 割 3 3 3 - 1 TEL0198-26-5741 FAX0198-26-5746
盛 岡 事 務 所	020-0173	岩 手 県 岩 手 郡 滝 沢 村 滝 沢 字 根 堀 坂 5 5 2 - 3 TEL019-694-1661 FAX019-694-1662
仙 台 営 業 所	985-0845	宮 城 県 多 賀 城 市 町 前 2 丁 目 4 番 2 7 号 TEL022-367-4573 FAX022-367-4846
小 山 営 業 所	323-0158	栃 木 県 小 山 市 梁 2 5 1 2 - 1 TEL0285-49-1500 FAX0285-49-1560
名 古 屋 営 業 所	480-0102	愛 知 県 丹 羽 郡 扶 桑 町 大 字 高 雄 字 南 屋 敷 1 9 1 TEL0587-93-6888 FAX0587-93-5416
岡 山 営 業 所	700-0973	岡 山 県 岡 山 市 下 中 野 7 0 4 - 1 0 3 TEL086-243-1147 FAX086-243-1269
熊 本 営 業 所	862-0939	熊 本 県 熊 本 市 長 嶺 南 1 丁 目 2 番 1 号 TEL096-381-7222 FAX096-384-3525
都 城 営 業 所	885-0004	宮 崎 県 都 城 市 都 北 町 3 5 3 7 - 1 TEL0986-38-1045 FAX0986-38-4644